

英米ジャーナル
The Eibei Journal



明海大学 外国語学部 英米語学科
2021年 学科報告書

目 次

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉	1
英米語学科の新たな挑戦	1
2021年度英米ジャーナル刊行に寄せて	4
英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介	6
小林裕子ゼミ	6
梅谷博之ゼミ	10
川成美香ゼミ	12
河原伸一ゼミ	16
小谷哲男ゼミ	20
嶋田珠巳ゼミ	24
辰己雄太ゼミ	28
ケイコ・ナカムラゼミ	30
林智昭ゼミ	34
日吉信貴ゼミ	36
福井英次郎ゼミ	38
前田隆子ゼミ	40
松井順子ゼミ	44
横溝祐介ゼミ	48
金子義隆ゼミ	50
高野敬三ゼミ	54
百瀬美帆ゼミ	56
卒業研究題目一覧	60
2021年度英米語学科卒業研究発表会・報告会	67
GSM フィールドワーク参加報告	68
GSM インターンシップ	68
GSM ボランティア報告会	75
Multilingual and Communication Center (MLACC) 活動報告	82
名古屋外国語大学主催 学生通訳コンテスト参加報告	90
英米語学科同窓会 明英の活動報告	92
卒業生からの手紙	94
編集後記	99

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉

英米語学科の新たな挑戦

英米語学科主任 小林 裕子

今年もこうして英米語学科の皆さんが心を込めて書いた、ゼミ紹介や様々な活動報告、そして卒業生の皆様からの近況報告などを読むとき、学事暦が無事に一巡したことをありがたく思います。

2021年度は新任の先生方をたくさんお迎えすることができ、講義内容に多様性が加わった年でした。「専門領域研究講座」にも多彩な研究分野がお目見えしたことは学生さんにとって、新たな知的好奇心の芽生えとなることでしょう。

しかしながら2021年度も新型コロナウイルスの蔓延により、対面授業の機会が限られたものとなってしまったことは残念なことでした。そのような中でも1年生から4年生まで設置されている



ゼミ科目と、2年生の課題探求セミナーは毎回対面で授業を実施し続けました。様々なご意見もあろうかとは思いますが、やはり圧倒的多数の学生さんから聞こえてきたのは「対面授業の方が絶対楽しい」「友達と会えるのが楽しい」という声でした。manabaを通してテストを配信したり、学生と教員が文字を介したコミュニケーションをとることは可能ですが、やはり、4技能の修得を目指す特に1・2年生の英語科目群に関しては、その学びの特徴を最大限に活かすためには対面での授業が不可欠です。隔週の対面での授業を楽しみにしていた学生さんも多かったことと思います。

2021年度もまた、海外渡航が制限されたため海外語学研修やUCLA研修などを断念せざるを得ませんでした。再開できる日がそう遠くないことを確信しています。これまで

人類が乗り越えてきた困難を考えると私達はこの危難を必ずや踏み越えて飛躍することができるでしょう。

このような状況のなか GSM フィールドワークは、国内ボランティアとして地域住民の皆様からの暖かいご支援を受けながら弁天ふれあいの森で活動をさせていただきました。東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに参加した学生さんもありました。長時間のボランティア体験に、学生さんたちは弱音を吐くどころか、報告会では明るい笑顔を見せてくれましたし、はつらつとしたその発言内容は、それぞれの大きな成長を感じさせてくれるものばかりで、教員たちにも深い感動を与えてくれました。多くの学生さんが土を整え、種をまき、それが時の経過とともに美しい花を咲かせる様子に大きな感動を覚えたようでした。

全世界的なウイルスの蔓延が、国境を超える人・モノ・お金の流れを停滞させ、社会生活が継続的に大きな影響を受けることを私達は目の当たりにしました。そのような中で情報だけは国境を越えて激流のごとく世界中を駆け回り、その情報の真偽を確かめる私達の知性と冷静さが試されました。これからますます私達には「知力」が必要となるでしょう。我々教員は学生さんに道を示すことはできますがその道を自律的に歩むためには「知力」が欠かせません。課題を発見し、課題を解決するのは「知力」です。そして若い皆さんの勇気に満ちた実行力も重要です。在校生の皆さんも卒業していく皆さんも、そして既に社会で活躍する皆さんも、継続的な学びから得る「知力」で困難を乗り越え、美しい地球を再構築していきましょう。

先日、こんな言葉に出会いました。【毎日ほんの少しずつ貯金をしていくと1年経った時、ほんの少ししか貯まっていなかったことに驚くだろう】少々自虐的ですが確かにそうですね。

1日1英単語覚えれば1年で365単語。1日30分読書するならば1年で約182時間ですからトータルで約1週間ですね。確かにちょっぴりの積み重ねの結果はちょっぴりですね。でも、そこから始めましょう。30分間読書した内容をじっくり頭の中で思惟し続けましょう。1日1つ覚えた単語を使って、たくさん文章を頭の中で巡らせてみましょう。大学での学修は、学んだことを応用する事、そして違う次元に展開させることです。このような状況だからこそ自省が肝要です。自らの内面への探検こそが、時が満ちた時に外界への「跳躍力」となります。いまこそ「知力」と「跳躍力」を研いでいこうではありませんか。



2021年度英米ジャーナル刊行に寄せて

副学長・外国語学部長 高野 敬三

学科活動報告である英米ジャーナルは、各先生が担当されている専門領域研究講座や卒業研究で学生の皆さんがゼミ担当の先生方の下で、どのような研究をしているのかがよく分かる報告書となっております。2年生が第3学年からの専門領域研究講座を履修する際の貴重な参考資料ともなっております。そこでは、学生の語る内容をとおしてゼミの内容や担当教員の個性がよく表れています。今年度も英米語学科の各ゼミからメッセージが届いています。

英米ジャーナルには、こうしたゼミ紹介としての側面と英米語学科の学生が卒業までに体験する就職活動体験やボランティア・インターンシップなど様々な英米語学科の特色ある事業などが豊富に掲載されています。

卒業生の皆さんは、明海大学の英米語学科ではどのような学修をしたのか、どのような大学生活であったのか、社会に出てからも自分の軌跡を振り返ることのできる本冊子を是非、時折、目を通して学生時代を思い出してください。

在学生の皆さんには、時に本冊子を読んで、本学英米語学科を卒業するまでの自己の未来である「行く末」を考えてほしいと願っています。

2021年度も、2020年に全世界を席捲した新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、東京オリンピック・パラリンピックが1年遅れで感染対策を万全にした形で開催され、大きな夢や希望を私たちに与えてくれました。本学においては、通年で、遠隔授業・対面授業のハイブリッド型の講義を実施してまいりました。夢を膨らませ入学した1年生、就活に専念しなければならない3、4年生のみならず、すべての学年の学生が大きな影響を受けたこととなります。2022年1月からは、ようやく収束しかけたコロナ禍でしたが新たな変異株であるオミクロンの爆発的感染状況を私たちは経験しております。おそらく2022年度も決して収束することはないでしょう。With Coronaの時代は終わりを見せておりません。



こうした中にあっても、英米語学科の先生方は、学生第一と考え、皆さんの心のケア、学修意欲の向上に腐心して指導してまいりました。学生の皆さんは、是非、こうした先生方に応えるとともに、予測困難な時代において、他の学生と協働して、「正答がない」問いに対して納得解を生み出して行ってほしいと願っています。



英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介

小林裕子ゼミ

専門領域研究講座

3年 椎名 怜央

我々が日常を生きる今、目に見えるものとそうではないもの。現代社会にはびこる問題、新たな試み。皆さんがあたりまえに過ごしているこの一瞬一秒には多種多様な物事が形を成しています。本国のみならず世界の状況を主体的に理解し、客観的な意見で時事問題を深く考察していく面白さが小林ゼミにはあります。

皆さんはこの目まぐるしく変化する現代という時代の渦の中に存在しています。ぜひ胸に手を当てて日々を振り返ってみてください。テクノロジーの発達やネットワーク構築が進み、怠惰で孤立した生活空間を形成してしまっていると思いませんか。また、普段何を見て、何を感じ、どのように行動すべきか、きっかけが掴めずに後悔したことはありませんか。社会を知り、世界を知ることから避けてしまえば、きっと渦の中に取り残されてしまいます。少しずつ社会情勢を知ること、ここから脱却し、明るい未来へと羽ばたいてみませんか。

まず、最近の小林ゼミの始まりは、「ハッピーなニュースはある？」と聞かれたり、興味・関心のあるニュースを問われたりします。事前にマスメディアからの情報収集をする習慣がつくことはもちろんのこと、共有した内容に対して先生からの具体的なフィードバックがもらえるので自信を持てたり、他ゼミ生からの情報も得られて知識へと着実に結び付けることができます。元々社会的知識がない方でも理解できないことを「業」だと思わず、一步一步継続していくことでインプットとアウトプットの成果を見出せるので安心してください。

そして、先生が事前にリストから厳選し、抜粋してきた英字新聞を基に生徒が順々に英文解釈をしていくことが授業の大元となります。Japan Times や BBC といった有名でかつ英検準一級ほどの難易度に至る新聞やその他の記事を翻訳するので日々の語学学習のモチベーションが向上します。さらに、先生は一人一人に対して優しく接して、時には厳しくアドバイスして下さるので、生徒同士が指数関数的に成長していくことが実感できます。しかし、基本的な単語や文法、社会的知識、所謂常識が頭に入っていることが大前提で進んでいきますので、注意が必要です。

以上のように、事前に調査したニュースの共有や英文読解・解釈を主に授業を面白楽し

く盛り上げていきます。

加えて、小林ゼミでは、ただ単に時事問題に関して議論を交わしたり、文書を読んでしみじみと感じるだけでなく、社会的儀礼・作法等も厳しく指導を頂けます。特に近年の若者は、間違っただけの言葉遣いを知らぬ間に正しいものと誤認して使用する傾向が見られます。今思い当たる節がいくつかあると感じた方が少なからずいると思われます。大学を卒業し、これから社会人の仲間入りを果たすことになる我々が、日本人の要素として重要視されているマナーを適切に行うことができなければ、社会に貢献すると公言する以前に笑われてしまいます。小林先生は、学生一人一人の些細な変化にも気づくほど普段から注目してくださいますので、是非人間力を鍛えるという点でも体験していただきたいです。

このように、どのようなタイミングでも先生ははっきりと問題点や優れている点を素直に伝えてくださるので、自然と自分自身のアイデンティティを問い直すことができます。さらに、その人に合ったものを見出し、就職活動のヒントまで細かく与えてくださいます。ここまで深く真摯に向き合い、まるで我が子のように大切に思ってくださいるのでゼミ生一同心から感謝しております。

英語でもって社会を学び、社会人としての教養を育む。常に将来を見据えて行動しているのが小林ゼミです。



😊😊😊この他6名😊😊😊

“SNS／動画配信サービスの普及率上昇＋コロナ禍＝〇〇〇”

新型コロナウイルスが日本で流行し始めてから2年が経過した今、「WITH コロナ」という言葉を元に、私たちの生活を充実させる新たな媒体やサービスの開発が進みました。一方で、未だに終息の兆しは見えず、日々のニュースの大半を占めるのが新型コロナウイルスの話題です。この2つの状況が重なった今、重要視される力とは何か、考えたことはありますか？それは、時事問題への対応力です。

興味深い動画が配信されれば、その内容に目を向けたくなる気持ちが生じるのは誰しもあり得ることで、その上、毎日報道される内容が同じような事柄に溢れたニュースへ耳を傾けることには気が進まない気持ちも十分に理解できます。とは言え、時事問題から目を背けることは、決して許されることではありません。そんな切り離せない関係性にある時事問題への対応力を身に付け、磨きを掛けていくのが小林ゼミです。

主に英字新聞を使用して時事問題に取り組む授業ですが、3年次から4年次の卒業研究に手を付ける直前までは、必ず、「何か面白い話ある？」の一言から授業が始まるのが特徴です。自分が気になったニュースについて意見を述べるのが一番の目的なので、もちろん正解はありません。しかし、この授業での何気ない恒例のやりとりを積み重ねることが、実は非常に重要な鍵となっているのです。というのも、私は就職活動中に、ある企業の面接を受けた際、「気になっているニュースはありますか？」と尋ねられたことがありました。もちろん、今までのゼミの授業を通じて培ってきた力があってのこと、動揺することなく自信を持って答えられました。同時に、日頃から時事問題に目を向けることが欠かせないことを非常に痛感しました。一見、簡単そうに見える事ですが、時事問題に対する意見を述べるということには、内容の深みがあり、ただただ知ったかぶりの発言をすることは異なります。もちろん、この違いを企業の方はすぐに見抜くことができるので、やはり真の力を養うことが大切なのです。

上記のような取り組みの継続がいかに重要かは、卒業研究を進めるにあたって実感します。テーマが自由だからこそ、自分が関心を持った題材に対して徹底的に追究する必要があり、自身の意見とも関連付けをしなければなりません。だからこそ、何を題材にするか大まかに考えながらも、または、日々出会う新たな時事問題の一つを題材にする場合でも、どちらにせよ、一つ一つの問題にしっかりと向き合うことが、それぞれの興味・関心や価値観を反映する、唯一無二の卒業研究を作成することに繋がります。

勉学の他にも、常識的に弁えるべき行動を見直す機会にもなるのが、このゼミならではの強みです。当たり前のことこそ気が緩んでできていない光景はよく目にしますが、そのような行動を指導してもらえる機会というのは滅多にありません。しかし、就職活動では

特に些細な行動まで見られている上、社会人になってからも恥のない行動をするのが本来のあるべき姿です。だからこそ、正誤をここまでしっかりと指導してくださる時間は本当に有り難いことだと感じます。もちろん、就職活動においても親身になって話を聞いてくださり、アドバイスもいただけるので、有意義という言葉の模範と言っても過言ではない程の時間を提供し、一人一人に寄り添ってくださる先生を、私たちゼミ生はとても信頼しています。

文頭の定義の空欄に何を当てはめるか、それは言葉や言葉から見える状況の捉え方によって異なり、正解はありません。私がおし例を挙げるとするならば、“ニュース離れ”や“時事問題への関心度低減”、“対人接触減少”といったところでしょうか。このような、危機的状況であるという捉え方を見出した先、養わなければならない真の力の学び舎として必要不可欠なのが、小林ゼミだと考えます。



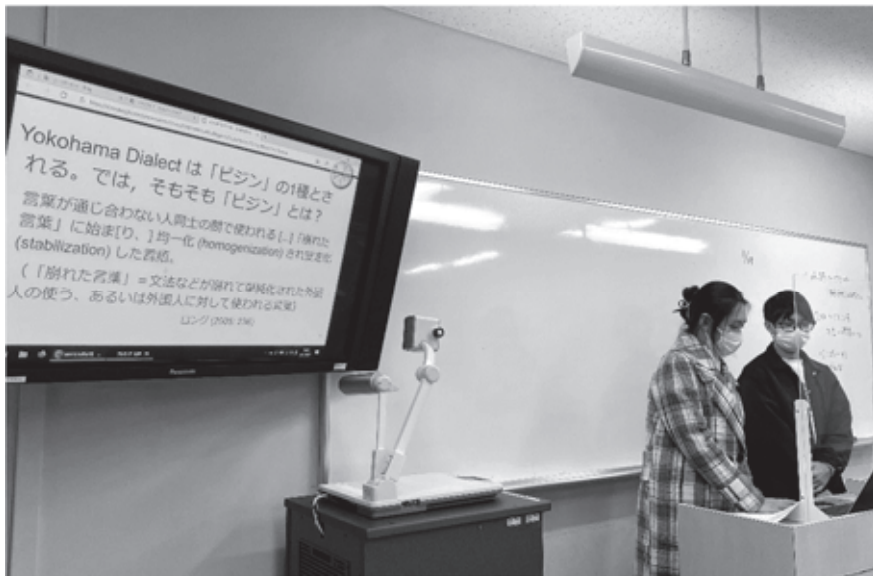
梅谷博之ゼミ

専門領域研究講座

3年 雨海 光希

梅谷ゼミでは、「言語学」について学ぶことができます。三年生の前学期では「統語論」や「語用論」、「社会言語学」などについて学ぶことができました。私は、元々方言に関心があり梅谷ゼミに入ったので、特に社会言語学について興味深く学ぶことができました。後学期では社会言語学の中でもピジンについてさらに深く学ぶことができました。「ピジン」とは、ある言語を話す集団が別の言語を話す集団と接触したときに、お互いに意思疎通するために生まれる混成語であり、私たちはその中の一つである「横浜ピジン」について学びました。横浜ピジンは1860年ころから数十年間横浜で使われていた言葉です。当時の横浜ピジンに関する資料には『横濱みやげ』、『外国商通異國ことば附』などがあります。これらの資料では主に英語の単語が紹介されています。一方、日本語の単語が主に紹介されている資料には *Exercises in the Yokohama Dialect* があります。私たちはこの二種類の資料の相違に着目して学び、他のゼミとの合同発表会で発表をすることができました。このゼミを通して私は言語について深く学ぶことができ、自分の興味のある分野について研究することができてよかったです。

梅谷ゼミではわからないものをわからないままで終わらせるのではなく、それに対してみんなで考え、話し合いながら授業をすることができ、とてもアットホームなゼミです。言語について興味があったり、挑戦したい人におすすめのゼミです。



梅谷ゼミでは、「音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・社会言語学」などの諸分野を学びながら、自分の興味のある分野やテーマを見つけることが今年の目標でした。

はじめに、ゼミで学んだことのうち、音声学と社会言語学の分野からいくつか紹介します。私は、このゼミに入る前は、音声学は音声の分類や、発音の仕方によって表されるニュアンスなどについて研究する分野だと思っていました。しかし実際には、音声学は身近な単語や表現に観察される様々な音現象を研究する幅広い分野であることを学びました。また、社会言語学で扱った事柄の例として、方言圏論があります。カタツムリを表す語として、「デンデンムシ」が京都を中心として分布しており、その周辺では「カタツムリ」と呼び、そのさらに外側では「ツノダセ」などと呼びます。このように、あるものを表す複数の語が、ある地を中心として同心円状に分布している場合があります。この場合、周辺地域にあるものほど古く、中心地域にあるものほど新しいと考えられ、この考えを方言圏論といいます。こうした考えがあることも、このゼミで新しく知ったことでした。こうしたことを学ぶ際に用いる資料では、日本語、英語だけではなく、モンゴル語、中国語、スペイン語やフランス語などからも例が出され、様々な言語の現象に触れることができました。

前学期の最後の授業では、Yokohama Dialectに関する論文を読みました。Yokohama Dialect はピジンの一種であり、1860年頃の横浜居留地において英米人などの外国人と日本人との間で使用された言葉です。私は、このYokohama Dialectに興味を持ったので、後学期はそれについて様々な論文を読んでいきました。例えば、ペケ、ポンコツなど今でも使われているいくつかの単語は横浜ピジンに由来するものであることが分かりました。このように、後学期では横浜ピジン全般についての理解を深めていきました。4年生の卒業研究では、Yokohama Dialectに関する具体的なテーマを定め、研究していくつもりです。



川成美香ゼミ

専門領域研究講座



3年 桑原 美緒

川成ゼミでは、「社会言語学」について学んでいます。社会言語学とは、社会での言語の使われ方を研究する学問です。例えば、階級や性別による言語選択の違いや、育ってきた環境や地域による言語の違い、丁寧表現などを学びます。会話をするために使っていることばが、いかに社会的・文化的影響を受けているかという視座は興味深いものです。

このゼミでは主に、社会言語学に関する英語の論文と日本語の教科書を扱います。まずはメンバー12名が二人一組のペアになって、英語の論文の担当箇所が割り振られ、英文和訳を越えた専門的内容について理解を深めます。その後、要点をまとめたレジュメを作りゼミでプレゼンテーションを行います。専門的な疑問点や英語の解釈に不安な点は、事前に川成先生へ質問をしてクリアにしてから発表に臨みます。同じように日本語の教科書も、1回目は章ごとにペアで、2回目は一人で一つの章を担当しプレゼンを行います。一人ですべてを担当するのは難しさもあります。しかし、いかにわかりやすいレジュメを作成し、わかりやすいプレゼンを行うかを試行錯誤するので、資料を作るスキルもプレゼンテーションを行うスキルも以前よりレベルアップしたと実感しています。毎週の対面ゼミで、仲間のプレゼンテーションを聞きながら社会言語学への理解を深めていくことは、とても楽しく、お互いから学び合えるので良い刺激になります。

後期からは、3年次の大きな目標ともいえる「ゼミ論文」について個人プロジェクトを開始します。社会言語学的な研究方法論も学びながら、各自が興味を持ったテーマについて、自分で資料やデータを集めて研究を進めていきます。私は「相談のアドバイス表現におけるフェイス侵害行為の日英比較」を研究しました。先人の研究や文献を調べることから始めて、日英語でのアンケートを自分で作成して、友人に調査をしたりインターネット上に流したりして海外の方から英語の回答も得ることができました。「ゼミ論研究」には計画性とオリジナリティーが求められるので、他の授業や課題などと両立することは大変でしたが、時間管理などをきちんと行いながら取り組む練習にもなりました。これは4年生での「卒業論文」を書くことへもつながります。

例年は、勝浦セミナーハウスでの合宿で合同開催される、3年生の「ゼミ論発表会」と4年生の先輩方の「卒業研究発表会」は、昨今のコロナウイルス感染拡大を受けて、1日かかりの ZOOM でのオンライン開催となりました。特に、4年生の卒業研究のプレゼンでは、発表の進め方・言葉遣い・レジュメの作り方など、まだまだ自分たちは未熟であることを実感しとても貴重な経験となりました。また先輩方から、卒業研究の進め方や就職活動についてのアドバイスもいただき、より気が引き締まった一日でした。

私は「社会言語学」という分野をこのゼミに入ってから学修し始めました。まだまだ知識量は足りていませんが、一からみんなで理解を深めていくことができ、川成先生の幅広い知識と経験から多くのことを学ぶことができます。またこのゼミでは、社会に出てからも必要となる資料作成やプレゼンを実践するので、着実にそれらのスキルも身につきます。この分野について学びを深めたいと思う方は、川成ゼミで学ぶことをおすすめします。

ゼミ論題目一覧

阿部絵梨華	ディズニープリンセス映画からみるアメリカ英語の女性語の変化
阿部 純奈	英語のオーバーラップの成功例—映画『クルーレス』の会話分析—
池田 桜	LGBT の理念とことばづかい—日本語と英語の映画にみられるおネエことば
江口ひなた	ノンバーバルコミュニケーションの日英語比較研究—今と昔の非言語の違いについて—
桑原 未緒	相談表現におけるフェイス侵害行為の男女差の比較
佐藤 渚	女性アイドルの楽曲からみえるジェンダー表現の日英比較
福井谷優輔	アコモデーション理論の日米比較
松浦 健吾	日本語と英語の日常会話における社交辞令
松戸 千尋	日本語・英語における会話の構造—映画『タイヨウのうた』・Midnight Sun の会話比較—
山田雄太郎	変異からみる航空英語の特殊性と教育
山畑 りこ	英語の会話にみるポライトネス—アメリカドラマ『エミリー、パリへ行く』から—

卒業研究



4年 西川 香織

社会言語学を専門とする川成ゼミ「卒業研究」は、3年次「専門領域研究講座」のメンバーに、コーパス言語学の講座所属だった新しいメンバーが加わり、総勢12名でのにぎやかな4月のスタートをきりました。個人レベルの言語使用を対象に会話分析などをおこなう「マイクロ社会言語学」の研究テーマと、集団レベルの言語変種の解明をめざして大量の言語資料（コーパス）を分析する「マクロ社会言語学」の研究テーマが混在し、バラエティーに富むゼミの展開となった1年間でした。

3年次ゼミ「専門領域研究講座」においては、専門知識と研究方法論を身につけて、各自の興味あるテーマについてデータを収集し「ゼミ論文」を完成させました。そのゼミ論研究こそが4年次での卒業研究に向けての準備となるものなので、卒業論文では発展的な研究が可能となりました。

4年次の「卒業研究」では、前学期の前半は3年次ゼミに引き続きテキストの輪読を進めて、専門知識の幅を広げます。それと同時に、卒業論文と就職活動のスケジュールを組むことが各自に求められます。いよいよ本格的に4年生としての自覚が高まります。この段階では、研究のデータや分析方法がなかなか定まらなかったりもしますが、川成先生がゼミの時間以外にも個別に相談できる機会を設けてくださるのでとても心強く思いました。また就職活動に関しても、川成先生は進捗状況を常に心がけてくださり、悩み事にも積極的なアドバイスをいただけたので安心感を得られました。前学期の後半からは、図書館ラーニングcommonsで毎回のゼミが行われました。静穏な環境の中で、本腰を入れての卒業

論文の作成を進めつつ、2週間に1回のペースで川成先生が個人指導をしてくださいます。この個人指導の時間は、本当に有意義なものであったと実感しています。

卒業研究は完全に個人プロジェクトです。各自が自身で興味あるテーマを設定し、先行研究から方法論を模索すること始めていきます。データはオリジナルなものを求められますが、これは社会言語学の基本です。今回のメンバーが収集したデータは、映画やドラマの SCRIPT、SNS やネット上で発信したアンケートの回答、コーパスから抽出した言語資料などです。次に、収集したデータの分析と考察ですが、このプロセスに膨大な時間とエネルギーを費やしました。何度も壁にぶち当たるのですが、川成先生がブレインストーミングや的確なアドバイスをしてくださり、少しずつ前進していきます。このような川成先生の熱心なご指導は、ゼミ生にとって心の大きな拠りどころとなります。

ゼミの恒例行事に関しては、今年度も3年次のゼミに引き続きコロナ禍の影響により、会食や合宿を行うことはできませんでした。また、この「卒業研究」の一大イベントである「卒業研究発表会」は、ZOOMでのリアルタイム・オンライン開催となりました。しかし、ZOOMでの「卒業研究発表会」も、とても価値ある時間であったと言えます。この発表会では、メンバー全員が精一杯頑張って完成させた卒業研究を発表し、それぞれの素晴らしい研究成果を共有することができました。後輩である3年次川成ゼミ生たちも、この発表会に参加をして熱心に聴講してくれましたので、来年度の卒業研究の作成に向けて大いに役立つ機会となったのではないかと思います。

最後に私自身に関してですが、もともと「ことばの性差」に興味があり、ゼミ論に引き続きことばによる性差をテーマにしました。特に、英語における女ことばに焦点をあて、「映画 Cinderella (シンデレラ)からみる英語の女ことばとその変化」と題して研究しました。卒業論文は、3年次のゼミ論文作成よりも、より多くの先行研究を読み、より多くのデータ収集を行い、より深く考察し分析する必要があります。いくつもの山を乗り越えて、川成先生の親身で熱心なご指導のもと、とても満足のできる卒業論文を完成させることができました。川成ゼミメンバー12名を代表して、心からの感謝をここに記させていただきます。



河原伸一ゼミ

河原ゼミで人生を変えませんか 簿記合格

日本経済新聞（2022年1月15日）で、社会人に役立つ資格の1つとして、日商簿記検定が選ばれています。「会社の中で必要とされる場面が非常に多い」とされています。

河原ゼミでは、大学在学中に取っておけばよかった資格ランキング上位の日商簿記検定3級合格も目指しています。私は簿記に興味があり、このゼミとのマッチング度は高いと感じ、河原ゼミにしか応募しませんでした。ゼミの最初の15分間はタイムマネジメントを意識しながら取引の仕訳問題を集中して解きます。よく分からない問題は、後でゼミ生同士で教えあえるアットホームな雰囲気なゼミです。日頃の学習成果が実り、日商簿記検定3級に合格でき、とってもハッピーです。今後は簿記検定2級にも挑戦し、「英語と数字に強くなり」人生の選択肢を広げたいと考えています（大田貴美子）。

Who is Prof. Kawahara?

河原先生は、国家公務員として国内・海外で豊富な勤務経験があります。先生のお話は、モスクワの日本国大使館勤務や内戦中のタジキスタンへの出張など、まさに「リアル」で、まるで映画を見ているようなワクワク感のある世界です。また、先生は外国語学習と資格取得が趣味です。英独仏露伊を理解し、通訳案内業免許の他、証券アナリストや行政書士、宅建士など多くの資格をお持ちで、ゼミ生一人ひとりに合わせて取得しておくの良い資格を教えてください。自らの経験をもとに、就活に向けての準備から社会で生き抜いていくために必要なことまで教えてくれるのが、河原先生です（吉野実花）。

ゼミの活動 — 新聞を読んで情報分析力を伸ばしませんか

河原先生は、中央省庁の調査部門や証券アナリストとして、公開情報分析の訓練を受けてきたプロです。私は今まで新聞を読むことがありませんでしたが、このゼミでは、河原先生が厳選された新聞記事を使って、情報分析力を養います。毎週のゼミで時事問題に触れることで、自然と今まで以上に時事問題に対し興味を持つようになり、今では日経電子版に目を通す習慣が付き、自分の世界が広がってきていることを肌で感じています（大田貴美子）。

私は、新聞記事の精読と解説がゼミの中で一番役に立っていると思います。普段なかなか読む機会のない新聞をゼミで読み込み、河原先生に分かりやすく解説してもらうことによって、世の中で起きている事例をもとに、今まで学んできた知識をより定着させること

ができ、また新しい知識も明確に理解することができ、私にとってとても良い活動だと思っています（新藤世偉）。

最近ではテレビやスマートフォンでニュースに触れる機会はありますが、新聞記事を通して世の中の出来事を知る機会はとても減っています。実際に記事を読むことで、内容だけでなく、自分の日常生活ではあまり使わない表現や語彙に触れることができ、新しいボキャブラリーを増やすことができ、社会人に一步近づけたような気がします。皆さんも新聞を広げているクールな自分の姿を想像してみませんか（菅原優香）。

ゼミの活動 — 就活に役立つ

河原先生は資格を持った証券アナリストなので、企業分析に詳しく、就活が始まり「〇〇企業に興味があるんですけど」と相談すると、パソコンで財務データを出しながら企業の健全性・成長性などについて説明してくださり、就活でとても助かりました（高須美祐）。

河原ゼミでは、一人ずつ1週間の出来事を話すことから始まります。河原先生は、ありふれた日常の中からの発見と学びを大切にされているので、通学の電車内や外出先で目にしたものや新しい発見をゼミ生で共有し合います。初めのうちは、ゼミで共有できるような出来事があったらどうかと悩んでしまったこともありましたが、「ネタ探し」として普段から目に入ったものを意識して、それについて自分なりに調べて理解を深めておくことを繰り返していると、少しずつ身近なものから発見を得て学びにつなげることが習慣になり、楽しみにもなります。また、他のゼミ生の発見にも触れられるので、自分では気付かなかった知識も得ることができます。そのおかげで、就活で面接官からの思いがけない問いかけに対して「あの時話したニュースだ」と授業を思い出し、落ち着いて対応することができました（吉野実花）。



日本経済新聞(2022年1月31日)は、自主的に学び行動する自律型人材を増やすため、企業がビジネス読書に取り組んでいると報じています。

河原ゼミでは、お仕事小説を読んでディスカッションをします。難しい言葉は、河原先生が少しずつヒントを与えてくださり、ゼミ生の力で答えに辿り着けるよう導いてくれるので、思考力を鍛えることができます。グループ面接で他の就活生と内容が被っても、別の言い方に変えて自分の意見を述べることができました(吉野実花)。

去年は、先生が持っているたくさんの本の中から1週間に1冊お借りして本を読んできました。学生のうちに多くの本を読んでいると良いということも聞いたことがあるので、自分も読んでみようと思いつつも、なかなか自分からいつも読まないジャンルの本に手を出すことはありませんでした。しかし、先生が用意してくださる本はビジネス関係の内容や就活に役立つような内容で、一見難しそうですがとても読みやすいものが多いです。自分ではなかなか手にすることの無いようなジャンルの本ですが、毎週新しい本に出会い、新しい発見をすることができました。読後はその本についての意見を交換することもあり、ただ読むだけでなく、読んだ後に理解したことを自分の言葉に表すことで、本の内容についてどのくらい理解できていたのか、再確認することができました。私はほとんど本を読む習慣がなかったため、初めの頃は読むだけでも大変でしたが、その本を読み終えた後には、今までの考えや視野が狭かったことに気づいたり、考え方の幅が広がったりするので、とても良い習慣ができました。次はどの本を読もうかと毎週の楽しみになっていました(菅原優香)。

ゼミの活動 — 政策勉強会

新型コロナの世界的大流行で制約がありましたが、政策勉強会を開催することができました。3年生は浦安市議会議員と、4年生は浦安市役所職員と浦安市の「まちづくり条例」や「青少年問題」について意見交換できました。

議員や職員の方から仕事に対する熱意や、大変さ、学生のうちにやっておくべきことなどをお伺いすることができ、とても良い経験ができたと思います。これこそ河原ゼミならではの活動ではないかと思います。実際に働いている方と学生が交流する機会というのは中々、自分で作っていくのは難しいことです。ゼミの中でこういった機会があるのはとても幸せなことだと思います。この新型コロナウイルスの生活が落ち着いたら、様々な企業の方とお会いすることができるはずです。このような貴重な体験をすることができるのは河原先生の幅広い人脈があつてのことです。どのゼミにしようか悩んでいる皆さん、就活に悩んでいる皆さん、自分の言葉をうまく表現したい皆さんにお勧めしたいゼミが河原ゼミです。私は鉄道会社に就職しますが、私も皆さんのお役に立てるような先輩になれたらいいなと思っています(高須美祐)。



小谷哲男ゼミ

専門領域研究講座

小谷ゼミでは国際情勢やグローバル課題に関する幅広いテーマについて研究し、これからの国際社会で働くために必要な知識を身につけることができます。

授業内容

私たちは1年間のゼミを通じて、世界史、言語、人口、移民、宗教、観光、貿易など、あらゆる方面から世界各国でどのような出来事が起き、変化や動きがあるのか理解を深めました。また、近年よく耳にするSDGsとは何か、なぜ今これほどにも重要視されているのかについても学ぶことができました。毎回の授業では、国際情勢や国際問題に関する資料を読み、データを分析した後にレポートを作成し、発表しました。そして、発表後には自分たちが感じた疑問点や論点についてゼミ生で議論し合い、最後に小谷先生からの講評や私たちゼミ生では理解できなかった点についてより詳しくまとめ、私たちに問いかけながら解決して下さるため、自分では気づくことのできなかったことに気づくことができ、物事に対する見方が変わるきっかけにもなりました。小谷ゼミでの授業を通じて、私たちが将来グローバル社会で活躍していくために必要な知識を得るだけでなく、学んだことを活用していく能力も身につけることができましたと思います。

学期末には1万字ほどのレポートを執筆しました。資料を一から集め、整理し、自分の主観から離れて客観的に物事を捉えるという作業は慣れないことばかりで、とても難しく、レポートを完成させるのに苦労しましたが、この経験から説得力を持たせるための論理的思考力や文章力を高めることができました。また、自分の興味のあるテーマを取り上げることができるので、最後まで飽きずにレポート執筆に取り組むことができ、課題発見力を高めることができます。初めての作業をしながら1万字のレポートを書くということはとても大変なことでしたが、執筆の際になにか困ったことや行き詰まってしまった時は、小谷先生に適宜フィードバックをいただくことができるので、サポートを受けながら執筆活動を行うことができます。

課外授業＋キャリアサポート

さらに、小谷ゼミでは国際関係に関する授業以外にも外部の講師を招いて直接お話を伺える企業研修があり、課外活動にも積極的です。外部講師の授業では、総合商社や、海運、航空、ホテルなどのさまざまな業界で活躍する社会人の方をお招きし、各企業の業務内容やコロナ禍により生じた働き方の変化、社員の方が顧客に対して意識して行っていることなど、経験も踏まえてお話をお聞きすることができました。また、顧客ひとりひとりに合

ったサービスを提供し、喜んでもらえるサービスを考えることの難しさを知りました。外部講師の授業を通じて、どの仕事においても、企業は人と人とのつながりや信頼関係の上に成り立っているということを学ぶことができました。

これらの授業は、今後就職活動を行う私たちゼミ生にとって、就職活動の軸を見つける貴重な機会となりました。こうした課外活動に積極的なのも、小谷ゼミならではのだと思います。小谷ゼミでは、今後社会人として生きていく上で「学んでおいて良かった」、「経験しておいて良かった」と思える授業内容がたくさん詰まっているのではないかとゼミ生一同が思っています。

執筆者：鈴木梨杏、千野田優希、武藤美優、重岡メリアン明子、中村有来、寺澤夏那



卒業研究

小谷ゼミでは、国際情勢やグローバル問題に関する幅広いテーマの理解を深めるとともに、論理的・客観的思考を養います。

授業内容

前学期の授業では、主に地政学と国際情勢に関する教材を用いて、世界で起きているさまざまな問題を理解するよう努めました。事前課題として、教材を読み、問題に対する疑問点や論点、さらにそれに関する自らの調査をレポートに要約してまとめることで、よりその問題に対して理解を深めました。そして授業内では、各々が担当部分の発表をしたのち、他のゼミ生からの質問やコメントに答える形で議論を行い、事前課題で調べた以上のことを学ぶことができました。

後学期の授業では、主に卒業論文の作成を行いました。3年次での「専門領域研究講座」で学んだことや、4年次の前期で学んだことの中から関心のあるテーマを卒業論文で取り上げました。3年次ではゼミレポートを仕上げ、レポートの書き方や構成等の卒業論文作成に必要な訓練をしましたが、卒業論文ではさらに高い水準が求められました。卒業論文のテーマの選定、リサーチクエスションの設定、手法と構成の確定、資料の分析というすべての過程において、小谷先生と一緒に考え、アドバイスを頂きました。そして、何度も添削とフィードバックを受け、リサーチクエスションに対する答えを導き出す中で、社会人にとって必要となる論理的・客観的思考と高い文章力を身につけることができました。

ゼミでの課題や卒業論文を作成することは簡単なものではなく、時折厳しい指導を受けることもありましたが、社会人になる上で必要となることを学んだだけでなく、社会に出てからも変化に対応できる力を養うことができました。また、ゼミでは TOEIC の特訓や英文読解などを通じて、英語力の向上にも取り組みました。



課外活動

新型コロナウイルスの感染拡大により、ゼミ合宿や研修など対面での課外活動はほとんどできませんでした。それでも、三菱商事やヒルトン東京ベイとのオンライン研修では、貴重なお話を聞くことができました。三菱商事の講義では、幹部の方から総合商社がどのような仕事をしているのか、ビジネスとは何か、そして特に世界中に広がるサプライチェーンの実態を知ることができました。ヒルトン東京ベイの研修でも、幹部の方からホテル業界の現状や将来性、魅力についてのお話を聞くことができました。総合商社業界とホテル業界のお話を聞いて共通していたのは、国際情勢が常に経営に影響を与えているということでした。国際情勢を学ぶ重要性について再確認できた貴重な経験となりました。

就職活動

4年生で1番不安なことは就職活動ですが、小谷ゼミでは内定率100%を目指しています。コロナ禍で航空・観光というヒトに関わる業界の門戸が狭まる中、希望していた業種での就職をあきらめざるを得なかったゼミ生もいましたが、流通などモノに関わる業界や、IT企業などデジタルデータに関わる業界では、コロナ禍でもむしろ採用が増えているというアドバイスを受け、全員無事に内定を取ることができました。

執筆者：二渡沙樹 籠瀬彩 出浦玲奈 三瓶海音 幸保穂乃加



嶋田珠巳ゼミ

専門領域研究講座



3年ゼミの写真を撮り忘れるという大失敗！心やさしい学生たち、集まってくれました。ありがとう。右下はハイブリッド方式で実施した議論型研究会の様子。専門領域講座の全員で発表参加しました。

3年 佐藤然

もし、これを読んでいる貴方がどのゼミにしようか迷っていて尚且つ、「ことば」に関する事に興味があるのでしたら、このゼミを選んで間違いは無いでしょう。その他にもまだ自分の興味のある事に対してぼんやりとしている人でもこのゼミに入れば自分次第ではありますが、ハッキリさせられるかと思います。

2021年度前学期の授業では主に自分の興味のある事や分野、漫画、小説、なんでもとにかく「本」を読み、内容や感想についてまとめゼミ内でお互いに発表をしました。人それぞれ違う本を選んでいましたので、もしかしたら新たに自分の世界を発見できるかもしれません。

後学期の授業では4つのテキストを読み、さらにそれをグループ分けして発表を行いました。私は「現代社会のことばのバリエーション」ということばの接触的变化と自律的变化について調べました。自律的变化や接触的变化と聞くと難しく聞こえますが簡単にいうと「ことばはどう生まれどう変化するのか」について書かれている物です。正直な所、難しくすぎていまだによく分かっていない所もあります。他にも「方言や方言話者による携帯メールのことば」「変わりゆく方言の役割」「言語生活の中の方言」など様々な題がありました。

また、毎年1月頃に行う議論型研究会という嶋田先生主催の発表会に向けたレジュメ作成&発表も行いました。この発表会では学生や教授など誰でも関係なく聴講する事ができます。

今回私たち3年生が発表した内容は「非関西人の関西弁使用—ネンとシテモロテを中心に」というもので、非関西人が日常的に使用する「ネン」や「シテモロテ」について実際にゼミ生が使用しているSNSやそのトーク歴、本やその他にも様々な資料を参考にし、3年のゼミ生全員で多角的な視野から見て作りあげました。

この発表会にある質疑応答では学生の他にも教授陣からの質問もある為、自分では絶対に考え付かなかったであろう物の見方が身につき、何より教授陣の質問は自分達が考えていた物の先を考えているので、上手く吸収できれば今後の論文作成以外にも必ず役立つ力が身につくかと思えます。

最後に、このゼミでは主体性というか能動的というか自主性みたいな事をかなり求められるかと思えます。というのも、レジュメやレポートを作る事が多々あるかと思えますが、そのたびに資料集めなど自分からやらないと何も始まりません。あと例年通りだと夏頃に勝浦でゼミ合宿なるものがあるらしいのですが、今年はコロナの影響でなくなってしまいました。来年の君たちの代ではあるかもしれません。色々書きましたが結論として、一回覗きに来てみてはどうでしょうか。

3年 小崎杏夏

議論型研究会では、ゼミの先輩である鈴木詩乃さんの「新庄弁から見る方言の変化と退化」について特に興味を持ちました。研究内容は、村生まれの新庄弁話者のさまざまな年代の男女21人にアンケートをとり、多くの新庄弁話者が変化と同時に退化を感じるという結果から、地域や年代により方言は変化や退化しているというものでした。その中でも特に面白いと感じたところは、同じ地方出身でも地域や規模、生活拠点によって方言に差異が出るということです。年齢によって異なるのは理解できたのですが、同じ県内でも異なることもあるのかと思いました。

年代別の地域外への方言の広がりについて研究した私たちの研究と年代別の地域内の方言の衰退と変化について研究した鈴木さんの研究はとても関連性が深く、二つの観点から方言を研究することでより方言に関する分析と理解が進むと考えられます。二つの研究から私は、方言はキャッチーなものは全国に広がる一方で衰退も進んでいくことでやがて全国的な言語の統一化が進んでいく可能性があると考えました。今後も研究を進めることで、新たな発見があると感じました。

卒業研究



4年 八久保洋介

嶋田珠巳ゼミの「卒業研究」では卒業論文執筆のために活動します。卒業論文のテーマは「幅広く、ことばに関すること」で「自分にしか書けないものを書く」という目標をもって卒業論文を書きます。自分が書きたいことについて嶋田教授は1人1人に精一杯のサポートをしてくれるし積極的に一対一での面談の機会を作ってくれたりもします。卒業研究を通して、1年間「ことば」について自分の関心のあることについて真剣に考えることができました。



講義では卒業論文の書き方について学んだり、メンバーが順々に卒業研究の中間報告を1年間で1人あたり2回行いました。中間報告の発表の後には長めの質疑応答時間があります。ほかのメンバーの発表を聞いて思ったこと感じたことを言い合ったり、「それは少し違うのではないか」というような反対の意見なども出ます。またほかのメンバーの発表からことばに関することについて勉強にもなるし、メンバーからの意見、質問によって今後の卒業研究の活動にむけて頑張れます。

また、嶋田教授が毎年1月に主催する「議論型研究会」という研究会があります。今年もコロナ禍ではありましたが1月18日には明海大学の講義室にて、19日にはZOOMを使ってウェブ上にて開催されメンバー全員が自分の行っている卒業研究について発表をしました。この研究会は参加自由形で誰でも参加することができ、明海大学の学生や教授、研究員、学外の方々などいろんな人が参加しました。また議論型という名の通り発表の後は

基本的な質問や専門的な質問、様々な意見が飛び交う研究会です。この発表、その後の議論を通して自分の卒業研究をやっていく中で、自分では見えていなかった、気づかなかった足りない部分、また自分の卒業研究のいい部分が多くの人々の多角的な視点からの質問や意見により見つけられモチベーションにつながります。教授の方も参加しているため卒業論文の執筆のためのアドバイスなどもしていただけます。そして自分の卒業研究が以前よりもいいものになります。

講義でも議論型研究会でも人の発表を聞いてどう思うか、質問や意見をしっかりと言うことが嶋田ゼミでは大切です。これによって人として「考える力」がつくと思います。

嶋田珠巳ゼミで「ことば」について深く考え学び、大学4年間の集大成として自分にしか書けない卒業論文を書きましょう！

4年 滝川陸斗



私が2年間嶋田ゼミで過ごしてみて感じた事は自分で考える力が付くという事です。卒業論文、議論型研究会などの機会において様々な人々の意見や話を聴く一方で自分の意見を持ち発表するという場面がかなり多いと思います。考えている物事の答えを出すのも大切ですが嶋田ゼミではそれにたどり着くまでの考え方や他の人々の考え方を吸収する事を大切に

にしていると思います。他の人と意見が違ったりしても考えた過程が大事だし、価値観の違いについて学べる良い機会になると思います。

4年 一瀬涼介

卒業論文を通して自分が持っている興味を突き詰めていくことの楽しさを知ることが出来ました。私は「英語の仮定法は日本語漫画の英語翻訳でどのように使われているのか？」をテーマに卒業論文を書きました。嶋田先生が毎年開催している議論型研究会に今年も参加しました。私は前回の議論型から「周りにいい影響を与えられる発表」をするという目標を掲げていたので、どうしたら人に伝わりやすく、興味を持ってもらえるようなものになるか常に考えながら卒業論文を作成していました。自分の考えを言葉にすることが苦手なので、何度もノートにまとめて整理しました。発表が終わり、沢山の人が意見を貰うことが出来ました。自分が伝えたいことをしっかり伝えることが出来た満足感、頑張って作成したもので人から意見を貰える喜びは議論型を通して得ることが出来た大切な感情です。ゼミを通して得た経験、感情を大切に次につなげて生かしていきたいです。

辰己雄太ゼミ

専門領域研究講座

ゼミ紹介

私のゼミでは、学生が言語に関して自分で疑問を見つけ、その疑問に対する自分なりの分析・解決方法を考えていけるように、様々なトピックを扱っています。学生による発表・意見交換を積極的に行うことで、「自分が疑問に思ったことがなぜ興味深いのか」、「その疑問を解決すると、どのような良いことがあるか」について、学生が自分で考えられるようになることを目指しています。

以下では、実際のゼミの様子を伝えるために、現在ゼミに所属している三年生を対象に実施したアンケートへの回答を、抜粋して紹介していきます。

学生へのアンケート

Q. このゼミを選択した理由は何ですか？

A1. 興味があったから。

A2. 私がこのゼミを選択した理由は、言葉に関する疑問を見つけ、その疑問に対する解決方法を自分なりに考えていくという授業概要に大変興味を持ったからです。

私はあらゆる物事で、疑問に感じたことはすぐに調べる習慣をつけています。そのため、解決しないまま放置してしまうことができません。納得できるまで深く追求できるこのゼミなら、さらに探究心を極められ、それと同時に問題解決能力も高めることができると思いました。このようなスキルは、ビジネスだけでなくプライベートでも実際に活かすことができるので、このゼミに所属し、大変満足しています。

Q. このゼミでどのようなことが勉強できましたか？

A1. プレゼンテーションの仕方や論文を作ること。

A2. このゼミでは、プレゼンテーションスキルや論文執筆のスキルなど、幅広い知識を辰己先生の講義を通して学ぶことができました。ゼミでは、学生が自分の興味があるテーマを突き詰め、その内容を同じゼミ生の前で発表するというスタイルで、授業を進めています。発表後は、辰己先生やゼミ生からフィードバックをもらうため、自分では気づくことのできなかつた新たな視点や発想を得ることができました。

また、ゼミ論文を執筆する過程では、参考文献の見つけ方、論文の構想の練り方、正しい日本語の使い方を、辰己先生の丁寧な添削指導を通じて学ぶことができました。ゼミ論文の添削は他のゼミ生を前に授業内で行うため、ゼミ生同士で言葉の使い方や表現方法を自

身の論文に取り入れることができ、一人で悩まずに、ゼミ生が一丸となって論文を書き進めることができます。インプットだけでなくアウトプットを行うことができる辰己先生のゼミで、自身を見つめ直し成長する機会に繋がりました。

Q. これからゼミを選ぶ学生に、何かアドバイスをお願いします。

A1. 課題は早めにやりましょう。

A2.ゼミでは、人前で話したり他者と意見を交わす機会があります。そして、そのことに対し苦手意識を抱いている方は多いのではないかと思います。私も当初、人前で意見や考えを堂々と発表することに苦手意識を抱いていたため、ゼミを選ぶうえで、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、どのゼミの先生方も学生一人一人に応じたきめ細かで丁寧な指導を行ってくれるため、苦手分野でも「まずは行動を起こさなければ克服できるチャンスを得られない」と自身の気持ちに変化が生まれました。

実際に、ゼミでは苦手をすぐに克服できたかと言われればそうではありませんが、何度も試行錯誤や経験を重ねることで、苦手意識が薄れ、「失敗しても構わないからゼミ内だけでなく様々な場においてもこのスキルを応用しよう」と前向きに物事全体を捉えることができるようになりました。皆さんも、失敗は付きものですから、是非苦手なことに積極的にチャレンジし、ゼミを自己成長の場として捉えるようにしてみてください。



ケイコ・ナカムラゼミ

専門領域研究講座

This seminar explores the field of psycholinguistics; in other words, the psychology of language as it is related to learning, mind, and brain, as well as to society and culture. It is a *zemi* of exploration and questioning, with discussions and presentations. We constantly asked questions and discussed many issues, viewing and analyzing video clips on animals, children, and adults to explore the mysteries of language, communication, and psychology. What impressed me the most about this *zemi* group is their motivation to do everything in English, including discussions, reading, writing, presentations. They have certainly done an amazing job and improved their English skills greatly.

During the first semester, each student chose an animal (e.g., cats, dogs, wolves) to research and examine whether their animal was able to “communicate” and/or “use language” based on video clips and photos of their own pets and from YouTube. Next, we explored first language acquisition, studying the stages of child language development. Then, we discussed second language and foreign language acquisition, considering different patterns of language learning and teaching methods (e.g., grammar-translation, communication-based teaching), sharing our experiences and frustrations learning English, as well as other foreign languages.

During the second semester, we focused on a wide variety of topics in psychology, by reading *40 Studies that Changed Psychology* (2015). Each student selected a chapter (topic) to read and summarize in a class presentation. As all of the studies were classic or state-of-the-art experiments from different fields of psychology, we were able to learn about numerous topics, ranging from behavioral psychology (e.g., conditioning/learning), cognitive psychology (e.g., cognitive maps, memory, expectations) and motivation/emotion (e.g., facial expressions), to developmental psychology (e.g., moral development), social psychology (e.g., conformity, obedience), and psychopathology (e.g., depression, psychotherapy).

Here are the results of a Google Forms questionnaire administered to the class. The first question was: *What topics did you enjoy?* The most popular topic this year was *animal communication*, followed closely by *psychology*. *Child language development*, *second language development*, and *bilingualism* were tied closely for third place.

The second question was: *What did you learn this year?* Students wrote:

- How animals and children acquire language.
- How animals (even insects!) can communicate in varied ways (e.g., pheromones).
- How pre-verbal children are already beginning to communicate (e.g., crying, babbling).
- How challenging it is to learn a second language.

- How to define bilingualism. Topics related to language were stimulating!
- How we can communicate without using words (e.g., gestures, body language).
- How fun it is to study psychology!
- How facial expressions are universal.
- What the difference between normal and abnormal is.
- How amazing human beings are (e.g., how flexible and resilient they are).

Also, students learned practical skills that will help them in the future, such as presentation skills and how to make good powerpoint slides. The presentations this year were outstanding! They certainly enabled the students to learn from each other.

Toward the end of the academic year, we started to think about possible topics for our senior theses next year. Some comments:

- I was thinking about doing "learning new languages" for my final report but I am thinking of changing it. It was much deeper and much complex than I expected.
- I have so many topics that I am interested in; I will have to narrow down my choices.

I hope that each student will find an interesting topic that they will enjoy researching over the next year! I am excited to work with everyone on their senior theses.



卒業研究

The academic year 2021-2022 was another challenging COVID-19 year! Hats off to our fourth-year students, who against all odds, managed to survive through the rigors of job-hunting and successfully finish their senior theses and reports. Despite the fact that it was a difficult environment in which to collect data, the students were motivated in their search for a research topic in which they could immerse themselves over the whole year. The diversity of topics certainly reflects the individuality of the students! Many students conducted questionnaires or interviews, while others analyzed texts and videos.

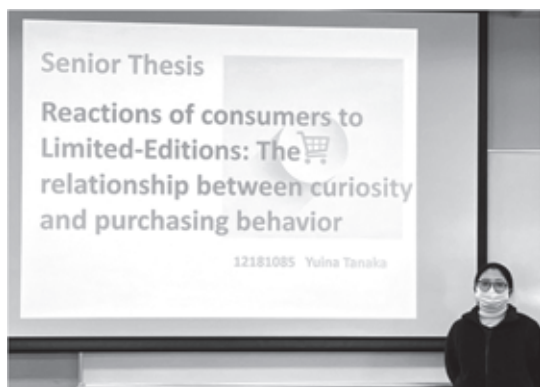
4年 田中 結菜

During the third year of our seminar, we gained a lot of knowledge regarding psycholinguistics. Based on what we learned, we conducted several presentations throughout the year. Then, this year, we tackled an enormous project: to write a senior report or senior thesis. Almost all of us did not have much experience doing so; over the year, we had to do a significant amount of research and organize it in writing. As a result, many of us struggled in completing our report or thesis. Some people decided their topics early in the year, but some of us didn't.

Regarding my own experience, during the process of reading previous research studies, I wrestled with how I would expand my research. Then, I repeatedly fine-tuned my topic. Finally, I decided to research on the topic of "Reactions of consumers to Limited-Editions: The relationship between curiosity and purchasing behavior".

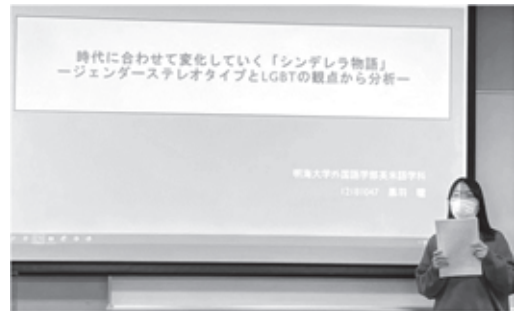
We've had COVID-19 but luckily, we could go to campus and receive suggestions and support every Friday from our thesis adviser. There were some students who conducted questionnaires and interviews. Others based their research on books, journal articles, videos, or

other sources. In my case, I first conducted a questionnaire with participants who were both Japanese and non-Japanese, and later, I came up with a hypothesis. My classmates did their tasks in different ways but it seemed that they also felt that it was challenging as well. It was incredibly hard to complete my thesis but at the same, I actually enjoyed it!



4年 黒羽 瞳・松原 令奈

ケイコ・ナカムラゼミでは主に心理学について学びます。3年次では、アニマルコミュニケーションや、乳児の母語の習得法について学び、学生それぞれが気になるテーマを調査し、発表を行いました。また、4年次の卒業論文では学生それぞれが自由にテーマを決め、作成しました。新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの授業もあり思うように研究が進まず、苦戦する場面もありましたが、ケイコ先生のお力を借りし、無事に完成させることが出来ました。ケイコ先生が言ってくださった「自分の興味のあることをテーマにした方が楽しく書ける」の言葉で、ハードルが高く、大変だと思っていた卒業論文も楽しく最後まで完成させることが出来ました。約2年間、ケイコ先生のゼミで学ぶことができ、とても楽しかったです。



林智昭ゼミ

専門領域研究講座

言語変化などの一見マクロな現象は、その背後に潜む人間心理、伝達の仕方、意思疎通におけるメカニズムといったミクロな現象によって動機づけられています。本ゼミでは、このような、私たちにとって身近な「言語」をめぐる諸問題についてのテキストを読み、日常言語の分析に取り組みます。毎回の授業では、言語の起源、人間の言語と動物のコミュニケーション、男女差、異文化間の違い、言語習得と外国語教育、方言研究、公用語と規範性、言語変化と外来語、危機言語と言語復興といったテーマに関し、テキストを出発点として各自の体験・印象・疑問を交えた意見交換を行い、言語の形式（音声）と意味の両側面について、言語学と関連分野における議論を概観します。ここで、今年度のゼミ概要と卒業研究のテーマを紹介します。

3年 佐久間 亮汰

私たち林ゼミでは、言語学に関する英語の教科書を使用し、世界の言語に関して幅広く学んでいます。自分たちの力で英文を和訳しながら授業を進めていき、言語に関しての知識はもちろん、複雑な英文構造、語彙の推測、発音や歴史的背景まで、90分の授業で広く様々なことについて議論します。また、先生が私たちの如何なる素朴な疑問に対しても納得いくまで解説、指導を行ってください、誰一人として取り残されることなく、全員が高い意識を持って授業に取り組んでいます。

[担当教員より]佐久間君のテーマは、英文法の体系と複雑性を「よりよく理解する」ことです。今年度は(i)未来を表す *will* と *be going to*、(ii)過去形と現在完了形などについて、大西泰斗・ポール・マクベイ(2011)『一億人の英文法』(東進ブックス)の「イメージ」による説明を取り上げ、その有効性を議論しました。「対照言語研究」の授業では、いつも積極的に質問と問題提起を行い、(例えば、「文法・構文論」の回には、*Google*、*Kondo* といった名詞が動詞化していることなど)具体例を挙げて毎回のポイントを指摘し、クラスが理解を深める上で重要な貢献を果たしてくれました。

3年 橋本 ありさ

私たちのゼミでは、言語学の研究者たちの論考が収録された教科書を用いて、言語学について様々な面から学んでいます。テキストは英語で書かれているため、授業を通して文章読解力が身に付いていき、論文の構造、書き方なども学べます。教科書を読み終わった後に言語分析を行い、ゼミ内でディスカッションをするため、その分野について多角的に考えることができます。

[担当教員より]橋本さんは、外国語として英語を学ぶ日本人学習者の「転移 (transfer)」の一端を、4 技能の観点から考察しています。今年度は、音声面の学習に関し、静哲人(2009)『英語授業の心・技・体』(研究社)を念頭に、洋楽の活用を試みる実践研究を行いました。Noam Chomsky 以降の認知科学の一分野としての言語学、応用言語学を背景とする本研究は、橋本さんの日常言語に対する洞察力、問題意識と柔軟な着想に支えられています。ゼミの議論は、言語習得、外国語教育に関する英文をも綿密に読み込んだ的確にコメントする橋本さんなしには成立しません。

3年 岩垂 香菜

今や世界の公用語と呼ばれる英語ですが、一概に英語といっても国や地域によって様々です。私は英語変種の多角的な分析を行い、World Englishes の理解を深めることを通して、グローバルな社会における英語について考察しています。本ゼミでは、言語に関する英文を速く正確に読解し、テキストの話題について議論します。この活動を通して、言語学の専門的な知識を深めるだけでなく、基礎から応用までの英語力と、自分の意見を主張する力を身につけていきます。

[担当教員より]気になることがあれば図書館で文献調査を行う好奇心、学科教員と積極的に議論して解決しようとする行動力を武器に、英語の諸側面を探究した1年でしたね。前学期は音声面に関し、映画『My Fair Lady』(1964)の台詞を取り上げ、コックニー英語とオーストラリア英語の母音にみられる共通性を論じました。後学期は、*than* を伴う比較表現とラテン語由来の *superior to* などの棲み分けに注目し、英語の歴史も念頭に置いた分析を行いました。毎週のゼミでは、持ち前の英語力と言語の *variety* に関する知識で輪読を主導する大黒柱といえる存在です。



日吉信貴ゼミ

専門領域研究講座

3年 石原 舞

日本文学の古典的名作や、現代小説だけではなく、映画や漫画など、私達にとって親しみのあるあらゆる芸術作品から、様々な生き方、思想、考え方を知り、共有し、議論する事で創造性を掻き立てることができるのが日吉ゼミです。また、各作品を通して差別問題や労働問題、貧困、格差など、社会の現状についても学んでいます。

3年 岩瀬 海輝

日吉先生のゼミでは、『進撃の巨人』『ズートピア』などの身近な作品や、川端康成の『雪国』、カズオ・イシグロの『わたしを離さないで』などの著名な作家の作品を独自の視点から考察し、議論をしています。普段作品に触れている時にはあまり考えることのない「現代社会を生きる私たちに通ずるもの」について、このような作品やゼミを通して考えることができます。小説を読むこと、映画を観ることが好きな学生におすすめです。

3年 遠藤 正隆

私は本を読み様々な考え方に触れるのが好きで、このゼミに入ることを希望しました。日吉ゼミでは、小説、漫画、映画を通して意見交換をし、幅広い「考え方」を得ることができます。このゼミは、本や映画が好きな人、先生とゼミ生から異なる意見を聞くのが好きな人、様々な視点から物事を考えるのが好きな人におすすめです。

3年 具志 飛和李

日吉ゼミでは、小説や漫画、映画など幅広いジャンルの作品を読んだり観たりして、作品が現代社会にどう関係して何を表しているのかを読み取り考察を深めます。ゼミ生や先生と意見や考察を共有することができるので、新しい価値観や考え方に出会うことができます。思考の視野も広がるのでコミュニケーション能力や発想力の向上も期待できると思います。

3年 田中 政彪

日吉ゼミでは小説を読んで議論し、お互いの考えや視点を共有します。小説だけでなく、『約束のネバーランド』『アイランド』といった漫画や映画も扱います。毎回の先生のツッコミが面白く、楽しみながら学ぶことができます。このゼミで私は本を読む習慣がつかしました。これからもどのような本を学ぶことができるか楽しみです。

3年 成田 藍蘭

このゼミでは、様々な小説や映画を通して、普段一人で鑑賞しているだけでは考えられないようなことを深く考察しています。自分一人では気づくことのできなかつたところを先生や、他のゼミ生との意見交換で気づくことができ、その小説や映画への知識を深めるだけでなく、今までしてこなかった考え方ができるようになります。

3年 大和 新之介

日吉ゼミでは、まず私たちに身近な漫画やアニメ、映画を題材に、作品の奥深さ、作られた時代背景を考察します。慣れてきた頃に、川端康成やカズオ・イシグロなどといった著名な小説家の作品に深く触れていきます。ゼミのメンバーとディスカッションを重ねることで理解を深め、様々な視点から学ぶことで本の面白さを知ることができます。

3年 福田 光玲奈

このゼミでは、今話題となっている本や映画、漫画などについて、ゼミ仲間と感想を共有した後に、日吉先生の文学的視点を交えて深く内容を読み取っていきます。今までとは違う視点から知っていた作品を読むことができ、刺激的なゼミです。私は、本といえば漫画しか好きではありませんでしたが、小説のおもしろさもゼミを通して学びました。自分が好きな作品についてより深く学びたい方には、このゼミを強くおすすめします。

3年 山村 智恵美

日吉ゼミでは毎回読書課題が出され、指定された本を読み感想を発表します。去年はカズオ・イシグロや柚木麻子の小説を解説していき、自分の考えをまとめて発表しました。それ以外にも『約束のネバーランド』や『クレヨンしんちゃん』などを用いた授業もあります。クラスの雰囲気はとても温厚で、全員が発言しながら楽しく学んでいます。



(イラストはゼミ生の石原舞による)

福井英次郎ゼミ

専門領域研究講座

3年 松根 翔

福井ゼミでは、「正しい情報を読み取る力」が身に付きます。私たちが普段目にはしているのはスマホのニュースやまとめサイトであり、内容の一部だけを切り取ったものです。しかし福井ゼミでは、新聞や新書を用いて、細かな背景や具体的な内容の理解に努めています。また、就職活動に役に立つ海外事情や現代知識が身につきます。その学びを通じ、自分の研究したい内容を明確にできるので、非常に有意義な時間が過ごせます。

3年 棚橋 悦

福井先生のゼミは、国際情勢やヨーロッパなど、国際関係のことについて幅広く扱っています。ゼミの時間は、国際問題や社会情勢について、学生間で和気藹々と議論しています。福井先生は学生一人一人の意見にしっかり耳を傾けてくださいます。また臨機応変に授業中さまざまな知識を教えてください、ゼミ生の研究課題に対しても丁寧にアドバイスをして下さいます。その他にも、3年生からは自主的に英語に触れる機会が減るので、英語力が衰えないように、英文の暗記などについてもサポートしてもらえます。

3年 日下 翔太

福井ゼミでは毎週『日経キーワード』の課題やスティーブ・ジョブズのスピーチの暗唱をしています。また、各ゼミ生の研究発表を聞いて、それについて議論しています。研究発表に関しては、自分の好きな事を調べて発表できるので大変自由度が高く、「自分の好きな事」について勉強できるのですばらしいと感じます。福井先生のフィードバックも的確で自分に足りないものを教えてください。国際政治を学びたいなら福井ゼミで決まりです！

3年 須藤 美月

ゼミで取り組んでいることは、『日経キーワード』を使用し毎回の授業でテストすることで、経済の知識を身につけている。また、毎回の授業にて、英文を覚え暗唱することで、英語能力の向上も期待できる。卒論では、世界のことについて各自で調べ、それぞれが異なるテーマを研究している。

3年 橋爪 柚依

福井ゼミでは、欧州について研究しています。しかし欧州のみならず国際関係全般についても触れているゼミです。普段は時事問題などの様々な分野のキーワードが載っている『日経キーワード』という教科書を使用しています。この教科書は就職、資格、昇進試験にも役立つ勉強ができます。また、スティーブ・ジョブズのスピーチの教科書も使用していて、英語力も鍛えられるゼミです。社会に出た時に役に立つゼミだと思います。

3年 安井 周

福井ゼミでは参考書を使用して近年の重要な事柄やキーワードを理解しつつ時事問題を学んでいます。また、自分が卒論に向けて取り組みたいテーマをもとに、段階を踏みながら、新書を使ったり資料を読んだりして、研究発表を行っています。ニュースで耳にする社会問題では、普段は気にしないような細かい部分まで知ることができるので、ヨーロッパを中心とした現代の国際関係について興味のある人にはおすすめです。

3年 楊 晨

福井ゼミでは、授業で『日経キーワード』を使っています。近年の時事や経済のニュースについて詳しく解説した本で、研究にも就職にも役に立つと思います。また、英語のスピーチの本も使って英語力をアップできます。福井先生は学生たちが書いたレポートの問題点を指摘し、やさしくアドバイスしてくださいます。福井ゼミに入っていなかったら、今のような勉強はできなかったと思います。ヨーロッパ研究に興味があり、英語を上達させたい学生におすすめです。

3年 劉 博文

福井ゼミでは、参考書を用いて政治・経済・環境・社会などの用語についての理解を深めつつ、興味ある分野に関するテーマを一つ決め、そのテーマのことについて深く学んでいきます。専門分野では理解することが難しい言葉などもありますが、先生がわかりやすく解説してくださいますので、理解を深めるのにとっても役に立ちます。専門分野で知識の幅を広げたい、理解を深めたい学生にはおすすめです。



前田隆子ゼミ

専門領域研究講座

3年 及川 龍之介

1. 前田ゼミを希望した理由

「協同」の知識は、私たちが社会に出た時に重要なものになります。私は教師になることを目指し教職課程を履修しています。もちろん学校という社会でもこの知識は大変重要なものとなります。加えて教師という職業は生徒に対して「協同」の知識を伝えていかなければなりません。また、学習指導要領の改訂によってグループワークや対話を主とした授業を行うことがこれからの教育現場に求められています。これらの理由から私は前田ゼミを希望しました。

2. 2021年度のゼミの内容

2021年度の専門領域講座は、新型コロナウイルスの影響受けながらも毎週対面形式の授業を行うことができ、前田ゼミは「協同」についての文献を読み、協同学習の手法をゼミの中で実践したり、テキスト(ジョンソン, D. W. 他(著)、石田裕久、梅原巳代子(訳)『学習の輪—学び合いの協同教育入門』二瓶社)の内容をグループで分担し発表しました。またSDGsの17の項目から問いを立て、「私たちにできることは何か」について考察しました。この中でも後半の2つが主な授業内容であったので、この2つについて印象に残ったことを述べていきたいと思います。

テキストの内容の中で最も印象に残っているのが、「成長していく上では競争よりも協同の方が効果がある。」という内容です。受験やスポーツなどでは競争という概念が強いと感じますが、私たちが成長するうえでは「協同」の方がそれぞれに良い影響を与えるということを学びました。このことは将来教師を目指す人間として、生徒の成長をサポートするためにも身につけておくべき知識だと思いました。

SDGsの項目に関して「私たちができることは何か」を考える内容では、ワールドカフェという手法を用いて、グループで問いに対して意見を出し合いました。ここではSDGsの項目の解決策だけでなく、自分とは違った視点の意見を聴くことで1人では導き出せなかった気づきや、それぞれの意見の中から新たな意見が生まれることを体験したことによって「協同」というものは私たちが生活していく上で必要不可欠であるということを学びました。

3. 最後に

1年間の前田ゼミで学んだことは、「協同」というものはただの知識や手法ではなく、私たちが成長、生きていくうえで非常に大切なものになるということです。大学生活も残り1年ほどですが、これからの大学生活でも、卒業して社会に出た時もこのゼミで学んだことを生かして、自分の成長だけでなく周りの人の成長に携わることができるようにしていきたいと思います。



卒業研究

4年 諏訪部 倭

今年1年間を振り返るとコロナウイルスの影響があり、卒業研究も就職活動も今までとは違う新しい方法で行いました。

ゼミの時間では全員が集まって研究に取り組むことは叶いませんでしたが、一人ひとり対面かオンラインかを選択し、毎週自分の研究に取り組みました。ゼミの仲間の進み具合も会えない分わかりづらかったので、モチベーションを維持してコツコツ取り組むことが大変でした。

私の研究では参与観察を取り入れたのでコロナウイルスの影響が大きく、なかなか思い通りに資料収集ができませんでしたが、オンラインで開催されるイベントにも参加して自分なりに資料収集に取り組みました。

そして、1月19日のゼミで卒業論文・研究発表会を行いました。1人10分程度でそれぞれが取り組んだ論文についてパワーポイントの資料を用いて発表しました。SDGsに関連したテーマについて論文を書いた人もいれば、海外と日本の教育を比べていた人もいて、聞いていて興味深い内容の研究がとても多く、初めて知ることばかりで勉強になり、身近な問題について考えるきっかけとなりました。

ゼミが始まって2年間でゼミ仲間との食事やゼミ合宿など、交流を深めるイベントが全くできなかったことはとても残念だったので、これからコロナウイルスが完全に収束した時には前田先生はもちろん、みんなで集まって遊びにでも行きたいなと思っています。



ゼミ担当教員・前田隆子より

このゼミは、協同学習をテーマに学んできたゼミです。「学び合い、支え合い、高め合う協同学習」を目指して2年間取り組んできました。3年次にゼミがスタートした時点では、新型コロナウイルスの蔓延で対面授業はできず、Zoomを活用し、主に文献講読を中心にゼミを進めました。時には楽しいこともやろうと、「コロナ」や「協同学習」のお題で、みんなで俳句を詠んだこともありました。後学期からは対面授業ができるようになったので、様々な協同の技法を体験的に学びました。学生たちの記憶にも残っているのは「ワールド・カフェ」だと思います。リラックスした雰囲気の中で、SDGsに関するテーマで様々な意見を交わしました。マスクを着用し距離を保ちながらの協同学習には大変苦労したことも、今となっては懐かしい思い出です。

4年次の卒業研究ゼミには、就職活動の影響も大きく、全員が揃うことは難しくなりましたが、各自がそれぞれのペースで卒業研究に取り組みました。初めのころは「論文を書けるのだろうか？」と不安ばかりをこぼしていた学生も、少しずつ歩を進め、最後には立派に書き上げて、その成長ぶりに感動しました。1月の研究発表会では、パワーポイントを駆使し、「わかりやすさ」を目標に各自が自分の行なった研究を誇らしげに発表しました。協同もしくは協働という切り口で、教育、児童文学、スポーツ、企業、SDGsに関するテーマまで、多様な研究内容を聞くことができ、最後にはお互いの苦労をねぎらうこともできました。

ゼミ合宿や食事会など授業時間以外に集まるのがゼミの醍醐味だと思いますが、そのような経験が一切できなかつたのは今でも悔やまれます。ウィズ・コロナ時代を生きる学生たちが、ゼミで学んだ協同・協働の技法や役割を社会人になっても活用し、この先の人生も幸せに歩いていくことを切に願います。



松井順子ゼミ

卒業研究

June-ko's Seminar - Class of 2022



Everyone made astounding progress over the course of the seminar. You all had amazing presentations! You are all beautiful, intelligent, and fun to be with, and will be successful at everything you do in the future! Love, June-ko (^ ^)

Comments on the seminar and advice for future students

- ◇ 王 熙 Xi: Thanks to two years of training, I acquired English translation skills, speaking skills, expressions, power point skills and so on, leaving behind good memories.
- ◇ 西出 梨花 Rinka: 授業中に英語を使ってコミュニケーションをとり、自分の興味があることを調べて英語でプレゼンテーションをしたり、それを通訳したりなので、楽しく英語力も通訳力も身に付くと思います。
- ◇ 伊藤 新菜 Niina: 松井先生はほんとに優しいです。すごく自由に延びのびとできるのがこのゼミの良いところだと思います。たのしんでください！
- ◇ 尾崎 真穂 Mao: 興味を持って臨んだ研究を完成させられてよかったです。やれば終わるので頑張ってください。

- ◇ 酒井 安優 Ayu: I think the coronavirus will continue to get worse, but please be careful about your physical condition and do your best.
- ◇ 鈴木 かれん Karen: Please take care of your health and do your best.
- ◇ 富永 瑠華 Ruka: I practiced simultaneous interpretation in this class. I was worried about joining from the fourth year, but I was able to meet good students and a good teacher. I had a good time this year in this class.
- ◇ 中島 裕人 Yuto: 授業時間内は英語を使ったコミュニケーションがあるので、英語力をつけたい人にはおすすめのゼミです。
- ◇ 八子 綾香 Ayaka: 4年生になると英語を使う機会が減りますが、このゼミは通訳ゼミなので、日本語も英語もたくさん使って会話します。1~3年でつみあげた英語力を保ち、さらにコミュニケーション能力を培うことができました。4年生からこのゼミに入りましたが、みんな仲良くしてくれて楽しかったです。
- ◇ 吉澤 梨央 Rio: 自分が一番興味があることを学べるゼミを選択すればきっといいゼミの授業が待っています！何よりゼミのメンバーが皆とても明るく楽しくゼミの授業を受けることができました。

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)



Congratulations on your commencement! May you be blessed with every success and happiness throughout your lives!

June-ko's Seminar - Class of 2023



Thuy



Xiaoting

This was an amazing high level seminar. You are both versatile and intelligent and so pleasant to be with. Your final presentations were insightful and profound! You will both be successful and thrive at whatever avenue of life you pursue in the future!

リュウ ギョウテイ

I think the seminar is great for language learning and cultural exchange. We can improve our oral English by communicating with each other. Also, we learn about differences between different cultures.

チャン タン トウイ

As an international student studying English and Japanese, I have many difficulties in translating from English to Japanese. However, in this seminar, I not only improved my interpretation skills, but I also acquired social knowledge, vocabulary, and note-taking, summarizing and presentation skills, etc.

	Presenter	Title	Interpreter
1	リュウ ギョウテイ	How the Internet Impacts Our Daily Lives	TRAN THANH THUY
2	チャン タン トウイ	The Reasons Vietnamese Students Choose to Study in Japan	LIU XIAOTING

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)

【Important Discoveries and Good Analysis of Important Topics and Nicely Executed Interpretations!／June-ko Matsui】

横溝祐介ゼミ

専門領域研究講座

3年 大栗 凜太

横溝ゼミでは主に文学や芸術について学びます。詩や絵画を鑑賞し、作者の伝えたい事、当時の時代背景や生活を感じながら作品に込められた思いを考察します。また、このゼミでは文学や詩を通して文法や英文を学ぶこともできます。本を読む事や芸術に興味のある人は、是非横溝ゼミに入ってみてはいかがでしょうか？

私は英語の検定試験の勉強に集中していたために研究テーマをまだはっきりとは決めていません。それでも、研究材料になりそうな気になる事柄は沢山あり、これからテーマを決めていこうと思っています。その中でも、特に「時代の雰囲気がよくわかる絵」に興味があり、18～19世紀のイギリスの産業革命やフランス革命時の絵や文学を見てきました。技術の進歩や混乱の時代において人々の生活がどのように営まれていたか、当時の絵や文学をヒントに研究していきたいと思っています。

「横溝ゼミに入りたい！」という方にオススメがあります。それは他の横溝先生の授業を受けることです。それによりゼミの研究の視野が広がります。実際に私は「文学特講」と「英語圏の文化と社会」の2つの授業を受けていましたが、特に「文学特講」の授業では、ゼミで研究するテーマの視野を大幅に広げてくれました。授業で習った事をゼミに活かせるので授業が楽しくなりますよ！

3年 木下 翠紗

横溝ゼミでは、主に文学や芸術に触れる授業が行われています。自分の興味の幅や視野が広がるのと同時に、自分の好きなものを突き詰めることができました。このゼミは私の経験してきた所謂「勉強らしい勉強」とは一味違う勉強の楽しさを感じさせてくれます。その他楽しさの積み重ねは自身の教養を育むことにもつながっており、人生がより豊かになる知識を身に着けることができていると考えています。

もともと私も文学の世界をこっそり楽しんでいるうちの一人ですが、楽しむと同時に文学について不思議に思うこともありました。そして横溝ゼミで文学や芸術に触れているうちに、いまに至るまで不思議に思ってきたことは、より明確な疑問へと洗練されてゆきました。私はいま、挿絵作家オーブリー・ビアズリーと彼に影響を受けた作家たちについて研究しています。ビアズリーは19世紀英国の文芸を語る際に無視できない人物であり、彼について調べるにつれて、英国の文化そのものへの理解も深めることができていると感じています。

もし、この私の文章を真摯に読んでくれている素敵な学生さんがいらしたら、横溝ゼミ

に合っているかもしれませんね。文章を丁寧に読もうという精神が文学をたしなむ上での第一歩ですから。

3年 鈴木 陸

横溝ゼミでは、文学や絵画といった芸術作品について学んでいます。私は作品の内容だけでなく、なぜその作品ができたのか、また、作者はどのような人生を過ごしてきたのかというところまでしっかり掘り下げて考察するようにしています。

私がいま注目して取り組んでいるのは、「オフィーリア」という創作の中の一人の女性についてです。研究テーマは（今の時点では）「オフィーリアはなぜ川にその身を沈めることになったのか」になります。原作は17世紀シェイクスピアの『ハムレット』ですが、19世紀にはジョン・エヴァレット・ミレーが『オフィーリア』という絵画作品を作りました。この絵画は非常に有名ですが、それはかの夏目漱石の『草枕』にも言及されているほどです。私は自分のたてた問いについて考え続けることによって、ミレーの『オフィーリア』をみた漱石の気持ちまで確信を持てるようになったら、そこまで調べることができたなら、すごい成果だと思います。

芸術作品についての知識を深めるだけではなく、時代背景や作者の人生や当時の生活についても想像するのは面白い作業です。その中で、対象の作品を取り巻く様々な意見に出会うと「こういう考え方もあるのか」と自分の考えを広げていくことができますよね。横溝ゼミに入って、私の後輩になってみませんか。一緒に研究しましょう。



金子義隆ゼミ

専門領域講座

3年 松井 健人

金子先生のゼミでは、英検のライティングの過去問を解き、一人一人の回答を発表しながらベストアンサーを考えました。文法や英語ならではの言い換えまで細かく先生が指導してくれたため、自然と英文を作ることが楽になりました。また、英語以外でも「SDGs」について勉強しました。17の目標の中から自分が興味を持ったものを選び、それについて詳しく調べ、実際にパワーポイントを使いながらクラスで発表をしました。発表後もプレゼンの内容をみんなで話し合ったり、積極的に質問をしたりすることが出来ました。

3年 小川 正人

ゼミでは、SDGsについて一人一人がプレゼンをしました。そこで僕は、普段生活しているだけでは気づかないような環境問題や貧困地域の問題に触れることができました。その中で自分がこれからどのようなことをしていけばいいのかや世界でどのような取り組みがされているのかを学ぶことができとても勉強になる授業でした。授業の雰囲気も、真面目な時は真面目に話しますが面白い話などもしたりするのでとても有意義な授業だったと感じています。

3年 七海 悠貴

私がこのゼミの授業で学んだことは、SDGsについてです。私はこの授業で学ぶまで、SDGsというのを知りませんでした。ですが、そのことについて発表することがあり、SDGsについて調べました。これは簡単にいうと世界で解決する必要がある問題です。この中の私は飢餓に対する問題を調べたのですが、今私が生活している間にこんなにも人が苦しんでいるのだと知ることができました。この授業で知らなかったことを知ることができたり、なによりみんな優しく楽しい。こんな素晴らしいところに恵まれて私はよかったなと思いました。

3年 西井 廉

私たちのゼミでは前期では英検のライティングを主に行い、英語の文の構造の作り方や単語などを勉強しました。後期ではSDGsについてそれぞれ調べ、パワーポイントにまとめみんなの前で発表しました。このゼミでは後期に2回発表する機会がありゼミのメンバーそれぞれが2回発表しました。7人と少数のゼミですが、人前で発表となると緊張します。自分は発表に自信がありませんでしたが、このゼミを通してその緊張が少なくなりあまり緊張しなくなりました。発表に自信のない方は是非うちにきてみてください。

3年 吉谷 皓介

私は、この金子ゼミに入って、学んでいることが2つあります。1点目は、SDGs という就活で使える問題を授業内で取り組んでいることで SDGs への知識を得ることが出来ていて、その知識をプレゼンで発表することで自分に対しての学びになっている点です。2つ目は、学校の教員を経ているので、英語に対して発音等わからないところを親身になり、教えて頂けていつも学んでいます。また、進路についてもいろいろ親身になって指導して頂けて私は公務員を目指して日々精進しています。ぜひ少しでも興味を持っていただけると幸いです。

3年 吉田 遥輝

ゼミでは英語力向上とともに知見を広げるため世界で共通指定されている問題、SDGs を取り上げてプレゼンテーションをしました。第1回目の発表会の後さらに深掘りするために第2回を行いました。第一回の発表を聞いて気になった部分や自分が調べて気づいた点やさらに興味を持った点を第二回では発表しました。各々が目標を掲げ、知識を深めつつ自分の能力を上げるために行動できたと思います。

3年 佐藤 大哉

私は本ゼミで SDGs について学びました。17種類あるカテゴリーの中から一つ選びそれについて調べ、授業内で発表しました。私は主に動物や海洋プラスチックに関する環境問題について学習しレポートにまとめました。今まで私生活で気にしていなかった環境問題がこんなにも身近な存在だということに気づくことができ、自分達には何が出来るか自分なりに考える良い機会になりました。この経験を元に少しでも周りの人たちにこの SDGs について知ってもらうためにこれからも自分自身環境問題に興味を持っていきたいと思っています。



卒業研究

4年 山口 直樹

金子ゼミでは前期は高校で実際に使われている英語の教科書の分析をしてプレゼンテーションをしました。後期は個人の研究を中心とした授業でしたが、中間発表など年間を通してプレゼンテーションをすることが多いので人前で話す力や、自分の意見を伝える力をつけることができます。

4年 伊集院 香鈴

金子ゼミは主に SDGs に関連した内容を扱っていて、まず高校の教科書を取り上げ、SDGs と関連した内容部分を切り取り生徒自身で深く掘り下げていき、その内容を発表し合うものです。自分たちが好きな SDGs の内容を取り上げられるので好きな人には合っていると思います。卒論も SDGs の内容を入れればテーマは自由です。是非金子ゼミへ！

4年 押田 美咲

北欧3カ国と日本の SDGs の取り組みの違いについて考えました。上位3カ国との差は何があるのか、日本の改善点や良い点、3カ国との共通点をまとめました。現在の実態と国による対策方法、認知度などを比較し、自分たちには何ができるのか考えました。

4年 齊藤 晴人

金子ゼミでは主に英語教育を題材に研究を進めています。その中でも私が特に勉強になったと感じていることは、教科書分析です。高校生の時には気にも留めていなかったことに気づくことができ新しい発見が出来る事でしょう。改めて英語学習に興味をも強い機会にもなると思います。

4年 田中 友基

金子先生のゼミは今話題になっている SDGs や CLIL による勉強方法など最新のことを取り扱ってそれについて研究したりします。学校でこれから習っていくようなものを先駆けて学ぶことのできるゼミです。先生もとても優しいし、コロナで飲み会などは行けませんでしたがとても楽しいゼミなので是非入ってください！

4年 辻 慎太郎

私は金子ゼミでの1年間で様々なことを学ぶことが出来ました。授業内容は、SDGs の観点から教科書分析を行い発表することや、卒論を講義の時間内で書き進めることによって、分からないことがあれば先生に聞いたり、仲間に相談することができたりしました。生徒との距離が近く、とても親しみやすい先生です。ぜひ！！

4年 藤原 智輝

金子ゼミに所属していたのは1年間だけでしたが、認定教科書を使った内容研究を通して学校教育について学ぶ事が出来るので、学校教育に興味のある人におすすめです。他のゼミよりも卒業論文のテーマに縛りがなく自由度が高いため、興味のあるテーマも書きやすいと思います。

4年 森山 樹

日本と北ヨーロッパにおけるSDGsの取組の違いについて研究しました。現状の実態と国による対策方法などあらゆる項目において、日本の取組の良い点や改善点を分析し、スウェーデン・デンマーク・フィンランドの共通点を探し比較しました。北ヨーロッパのSDGsへの関心の高さは幼少期からの教育の賜物であることがわかりました。

4年 小野 朱里

金子ゼミでは、前期に、高校英語の教科書を使用し、教科書分析を行いながらSDGsに関係のある内容や高校生に伝えたいメッセージを分析、後期では、それぞれの卒業論文を進めつつ、研究内容の情報交換をしました。教科書分析は難しくなく、ゼミの仲間と協力して一年を過ごすことができたので、金子ゼミを選んでよかったと思っています！

4年 黒田 明宏

私が考える金子ゼミの良い点としては人前で自分の意見を述べたり、質疑応答する経験を多くできる点です。プレゼンテーション一つとっても聴衆にいかにかわりやすく伝えるかも練習しなければ身につけていかないのでその力を身に付けることのできる貴重な場であると私は考えます。

4年 原 舞希

私は最初からこのゼミにいたわけではなく前のゼミの先生がいなくなってしまったのでこのゼミに途中から入りました。途中からなのに親しみやすい空気でした。先生もとても親切で自分のテーマをスムーズに研究することができました。



高野敬三ゼミ

卒業研究



4年 金田 麗音

私たちがゼミを決め始めなければいけない2年生の時期、一度高野先生のゼミはとても大変なゼミと噂で聞いたことがありました。しかし2年間高野先生のゼミを受けてきて感じたのは大変さというよりも、高野先生の生徒思いの優しさや面倒見の良い一面を知ることが多かった印象があります。

高野先生のゼミが大変と言われる所以は、おそらく毎授業プレゼンテーションを行うところにあると思います。私がゼミを始めたばかりの3年生の頃は、ゼミの生徒が私だけということもあり、私が作成したプレゼンテーションを先生と一対一で発表し、そのフィードバックを受ける、というのが授業の一連の流れでした。確かに毎授業に教科書の指定の範囲をプレゼンテーションとして作成するのはとても大変な作業でした。しかし、何かに対して準備し、その内容を他人に理解してもらえるように説明するという行為は、今になれば私自身の力になったと強く感じました。

高野先生のゼミは教職についてのゼミで、私は教員になるつもりはありませんでしたが先生のゼミに加入させていただきました。ですが高野先生は私たちゼミの生徒に合わせて柔軟に授業を行って下さり、とても楽しく2年間ゼミを行うことができました。高野先生のゼミは教職に興味がある生徒はもちろん、とても有意義な時間を過ごせ、多くのことを教えていただき、ゼミに入ることは大きなアドバンテージになると思います。また、私のように全く教職に興味がない生徒でも高野先生のゼミに入れば、人前で発表する力や簡潔にまとめる力が身につくと思います。

4年 呉田 裕都

私自身が英語学習者ということもあり、これまでの日本における英語教育がどのようなものかということと、日本人は英語を授業で受けているものの英語を話せる人が何故こんなにも少ないのかが気になり、私は高野ゼミに4年生から参加させていただきました。4

年生では、日本政府が日本の英語教育の質を上げるためにどのような政策を行ってきたかの変遷を学ぶことができます。なにより英語教育の歴史について深く学べ、現代ではどういった英語教育が求められているのか、どう変わってきたのかが詳しくわかります。このゼミでは教員を目指す人はもちろん、そうでない英語学習者の人もどのようにしたら英語を学習する効率が上がるのかなど考えるきっかけになると思います。

授業では2週間に1回プレゼンテーションがあり、そこでどう資料を作り、説明すれば人に伝わるかなどの勉強にもなります。プレゼンテーション作りを行うことでタイピングなどの速度も上がり、今後の学校生活だけでなく、その後の社会人としてのスキルアップにもつながると思います。卒業論文は、授業内で取り扱ってきた内容と自分自身で作成したプレゼンテーションの資料をもとに作成しました。英語教育に関することを自分自身でまとめて書いたのですが、コロナということもあり、高野先生に会える機会が限られていた中での卒業論文でした。しかし、途中経過の提出などを行って、的確なアドバイスをいただきながら制作を行うことができました。

4年次の卒業論文はより深い内容のものを書くため、多くの資料が必要となりましたが、高野先生が資料としてプリントを配布してくださり、とても有り難かったのを覚えています。今年は、コロナの影響により対面での授業も少ない中でしたが、高野先生のアドバイスをもとに卒業研究の資料集めや自分の考えをより詳細にまとめることができました。とても充実したゼミを過ごすことができました。先生が講義をする授業ではなく、生徒自身が前回授業でやった部分をまとめて自分の考えを発表するという形です。今まで考えたことのない内容なので少し難しいところもありますが、教師を目指す人もそうでない人も、自分たちが育ってきた環境やこれからの教育について考えられるので勉強になります。何よりも高野先生はとても面倒見がよく、自分が困っているときはいつも助けてくれます。とても学生思いで優しい先生です。自分は高野先生だからやってこれました。教育関係に興味のある学生は強く高野ゼミをおすすめします。

私たちのゼミは、教職を目指す人におすすめですが、日本における英語教育の変遷に興味がある人にもおすすめです。また、プレゼンテーション能力を身に付けたい人は、たくさんプレゼンテーションをするので上達すると思います。



百瀬美帆ゼミ

専門領域研究講座

3年 池上 温哉

百瀬ゼミには教職を履修している学生が所属しています。全員1年生から共に授業を受けてきているので気兼ねなく関われるので楽しいです。このゼミでは実際の授業を行なっている動画を見て学生が討論をしたり、自分達で模擬授業を行なったりしました。授業を重ねることで英語科授業について理解して、仲間の自分になかった意見や考え方を知ることです。新しい気づきを得てより深い学びをなっていると感じます。

3年 加藤 天真

細かな点を多く学ぶことができます。また、私たち自身で授業の教材や構成を作成したりします。先生から出されるお題や質問に対して、私たちは日々苦戦していますが、少しずつでも確実に対応できるようになってきていると思います。

3年 佐藤 向日葵

百瀬ゼミの特徴は、みんなが教師を目指している点にあります。主に教科書や映画を題材にして導入の仕方や、どのような発問をすればよいのか、ワークシートの作成などを講義形式ではなく、学生が主体となってディスカッションをしています。ゼミ生皆でディスカッションすることで視野が広がり「こういう方法もある」と新しいアイデアが生まれます。そこで得たアイデアは模擬授業などで活用し、全員からフィードバックがもらえます。みんな成長できるゼミです！

3年 佐保 翼

私たちのゼミでは「学習指導要領を具現化する授業」を作るためにどのような方法があるか文部科学省が提供している有名な教師による授業の動画を使用し良かったところや実際にその授業を行うにはどのような指導を意識すればいいか議論しています。百瀬先生は誰も見捨てず常に学生に寄り添い指導してくれます。そのおかげでゼミを通して英語力が身に付くだけでなく授業の組み立て方や教師としての心構えを学ぶことができ成長します。

3年 関野 玲佳

このゼミでは教員になった時に大切な事や、授業の進め方などを学ぶことも出来ます。先生の教員時代のお話を聞くこともでき、他の講義ではあまり聞くことが出来ない実際の体験談を聞くことで、自分が教員になった時のイメージが付きやすくなります。また、私は、教員になりたいという思いもこのゼミに入ってより強くなりました。実践を積むことも出来るので、将来教員になりたい方や、実践を積みたい方にもオススメです。

3年 高橋 陽人

百瀬ゼミでは、実際に授業が行われている動画などを視聴しながら、皆で意見を出し合ったり話し合いをしたりして、教職への理解を深めていく活動を行っています。自分はこの1年間ゼミで中学校・高等学校で指導する際に必要な知識や授業展開の方法について学びました。今年は他の授業で実際に模擬授業を行う授業があったのですが、このゼミで学んだことを活かし英語が苦手な自分でも工夫して授業を行えたのでこれから教師を志す全ての人におすすめします。ヨット部の活動や就活等で参加できない日もありましたがこの1年間温かい仲間と共に学べて良かったです。

3年 横田 裕哉

このゼミでは、ビデオやプリントなどの教育教材から授業の展開例を学んだ後に、一つの定められた授業の展開に縛られず、ゼミ生みんなで気づいたことや疑問に思った意見を出し合いながら話し合い、適切な授業のやりかたについて考えを深めていくことができます。また、各自が授業展開を考えて実践した後にアドバイスを貰ったり、教材を読み込んで単語や語彙の学習をしたりします。全員が同じ目標を持って頑張っています。

ゼミ担当者 百瀬 美帆

3年生7人は皆さん真面目な努力家で、3年終了時にはそれぞれが卒業後の計画を明確に持てるようになりました。もう1年一緒に頑張りましょう。



卒業研究

4年 五十嵐 彩音

私は4年生からこちらのゼミに移動し、百瀬先生に教育実習のアドバイスや必要提出物のご指導をいただき、卒業を迎えることが出来ました。学生も教職課程履修者のみなので、お互いに相談しながら歩んでこられたと思います。不安な状況の中最終学年を迎えることになりましたが、充実した1年を送ることが出来ました。

4年 伊藤 穂乃花

百瀬先生のゼミは教員のことについて学べることはもちろん、百瀬先生は経験談をたくさん話してくださるので、そこから人としても学ぶことができるゼミです。学べることが多い分、いろいろな面で自分自身を成長させてくれるお母さんのような存在で、とても居心地の良いゼミでした。アットホームで居心地の良いゼミに入りたい人は百瀬ゼミしかないと思います！

4年 鵜沢 美里

百瀬ゼミは、全員教職課程を履修しているゼミです。そのため、教育実習や教員採用試験などの様々な試練を切磋琢磨し合いながら乗り越えてきました。また、性格や価値観の違う個性豊かなゼミ生達ですが、そんな私たち学生を1人1人よく見て、支えてくれる百瀬先生がいたからこそ、私自身、教員という夢を諦めずに抱き続けられたのだと思います。4月からは学校現場でいよいよ働くこととなりますが、学んだ多くをぶつけてきます。

4年 江川 有紗

私の大学生生活を振り返ってみると、印象的な思い出は少ないけど、最後に百瀬ゼミでクリスマスパーティーをしたことは良き思い出です。そしてなによりも、なんとなく過ごしてきた中で出会った友人とくだらない話をしたことも、数少ない思い出の一つです。短い間でしたが、お世話になりました。この御恩は一生忘れません。

4年 奥野 日菜

このゼミは教職に入っている学生のみが入れるので、教員になろうと志す学生が百瀬先生の全面的なバックアップの下、教職について学ぶことができます。また自分達で何かについて調べてそれを発表するなどアクティビティがあり、周りの学生の発表を聞くことで、新しい学びがあり主体的な学習ができるゼミです。

4年 嶋田 宗晋

私は諸事情により、4年生からこの百瀬先生ゼミに所属しています。私がゼミを変えることを悩んでいた3年生の頃、友人から百瀬先生の人物像についてよく耳にしました。それは、個人のペースに合わせて親身に支えてくれる先生であるということです。従って、マイペースである私には相性の良い環境であると考えこのゼミを選びました。その結果、先生とゼミのメンバーで自分のやりたいことに挑戦することで日々満足感に満たされながら過ごしています！

4年 高橋 勇気

百瀬ゼミでは、教職を履修している人がメインであることから、前期は教育実習に向けた準備や教員採用試験の対策等を行いました。また、後期は卒論作成として各々で指導法や教材などの研究を行いました。私は卒論のテーマを「CLIL 学習」にし、高等学校の英語教育でどう生かすことができるのか考察をしました。百瀬先生は様々な場面で困ったときに親身になって対応してくれる優しい先生です。そのため、感謝の気持ちでいっぱいです。

4年 庭山 航瑠

私たちのゼミでは主に教職関係のことを研究します。このゼミでは英語科の教育に関することなら何でも自由に研究したいことをやらせてもらえます。卒論に関しても教育のことに興味があれば好きなテーマにできますし、行き詰まったとしても先生が教育のプロなので的確なアドバイスを頂けます。ゼミと言ってもそんな固いものではなくて雰囲気も良く、学生と先生同士の距離が近いのも特徴です。3年生と4年生の距離も非常に近く、同じ教職生なので様々なアドバイスや相談ができます。クリスマスには3年生と4年生合同でパーティーもするので更に親睦を深めることができます。教職生には是非オススメです。

4年 矢吹 駿介

同じ教職課程を2年間続けてきた顔馴染みのあるメンバーや教職課程センターでのイベントなどで顔見知りの先輩が多い為アットホームなゼミです。4年次には教育実習の準備や社会人としての個人別プレゼンテーション練習などを行います。他のゼミでは3・4年生間での繋がりはほぼ無いですが、ここでは昨年度から始まった4年生から3年生へマンツーマンでの模擬授業の作成補助活動や親睦交流会などがあります。教員免許取得に役立つゼミです。

[ゼミ担当 百瀬美帆]

今年の4年生の印象をひと言で表すなら「スマート」です。辛いこともあったはずですが、さらりと乗り越えてきました。4月からの活躍が楽しみです！



卒業研究題目一覧

小林裕子ゼミ（提出順）

1	宇井野岬士	アーティスト・クリエイターブランディングが 日本の音楽ストリーミング市場に与える影響に関する一考察
2	藤本 華	世界を取り巻くプラスチックごみ問題 —減らす思考と増やす思考—
3	亀山里佳子	日本の政治・経済と少子高齢化問題 —海外依存の問題点—
4	伊藤 輝	千葉の生態系の今 —私たちと美しい自然が抱えている問題—
5	梶谷 健人	世界の抱える問題に対する報道機関の在り方 —客観性のある国際報道とは—
6	西川 萌都	自然と技術の融合 —山岳遭難回避法—
7	米谷 力	インターネット普及がまねく諸問題 —SNS を事例として—
8	齋藤 幸大	スマートフォンが人体に及ぼす影響 —視力大幅低下の事例から—

【深い問題意識が感じられる秀逸な研究ばかりです。頑張りましたね(^o^)/小林裕子】

川成美香ゼミ（提出順）

1	西川 香織	映画 <i>Cinderella</i> (シンデレラ)からみる英語の女ことばとその変化 — <i>Cinderella</i> (1950)・ <i>Cinderella</i> (2002)・ <i>Cinderella</i> (2007)—
2	村山 晃輔	「選ぶ」を意味する5つの英単語の違い —日本の英語教育とアメリカ英語のコーパスとの差異—
3	加藤 大智	現代英語における different に後続する前置詞の多角的分析 —コーパスを用いた中学英語教育への示唆—
4	吉川 諒	現代アメリカ英語における “How are you ?” に対する応答表現の 機能分析

5	大野 裕聖	アメリカ人と日本人のコミュニケーションスタイルの比較研究 —Grice「協調の原理」と高コンテキスト・低コンテキストの概念を用いて
6	岡村 展典	リメイク英語を利用した会話スタイルの比較研究 —日本語と英語の違い—
7	菊池 峻平	類義語 try と attempt の違い —使用域・使用頻度・共起語をコーパスからみる—
8	遠藤紗矢花	人間的成長と信頼関係の構築にかかわるポライトネス・ストラテジー
9	湯川 大輝	若者ことばの使用度に関する男女差 —日本人とアメリカ人の若者を対象として—
10	阿曾 拓未	アメリカ英語の女性語—時代による使用率の変化—
11	影山 瑞季	メディアからみる日本のジェンダー・イデオロギーの変遷 —英仏も視野に入れて—
12	市原 誠司	日英語のことわざにみる高コンテキスト・低コンテキストの関係性

河原伸一ゼミ

1	大高 美菜	レ・ミゼラブル ヴィクトル・ユゴーの作品の普遍性に関する考察
2	菅原 優香	過剰包装による環境負荷と消費者の意識に関する考察
3	高須 美祐	BTS がエンターテインメントに与えている影響に関する考察
4	松本二千花	東京ディズニーリゾートの経営戦略と SDGs に関する考察
5	吉野 実花	音楽・映像産業における韓国の国家戦略に関する考察

小谷哲男ゼミ

1	荻野 弥月	BLM 運動がエンターテインメント業界に与えた影響 —差別的表現の規制と表現の自由の確保にどのようなバランスをもたらすべきか—
2	籠瀬 彩	感染症対策に関する米中関係—新型コロナ発生源をめぐる論争と米中共同研究から見えてきた問題点—
3	幸保穂乃加	文化的側面からみた日韓関係—文化交流は政治的問題の克服につながるか—
4	三瓶 海音	紛争鉱物の管理—各国の対応の課題—

5	出浦 鈴奈	国際民間航空の安全な運航と国際関係—民間航空機の安全な運航が脅かされた各事例より—
6	馬場日菜子	コロナ禍の航空業界の現状と観光立国実現の再開に向けた課題
7	二渡 沙樹	新疆ウイグル自治区の人権問題—ビジネスと人権をめぐるジレンマと日本の対応—

嶋田珠巳ゼミ

1	一瀬 涼介	英語の仮定法は日本語漫画の英語翻訳でどのように使われているのか？
2	角一 創太	Language and Emotions
3	清水 大輔	広告のキャッチコピー効果
4	鈴木 詩乃	新庄弁から見る方言の変化と退化
5	滝川 陸斗	RADWIMPS 野田洋次郎の歌詞における表現方法
6	中村 優	日本語と韓国語はなぜ似ているのか—韓国ドラマに出てくる似た言葉の分析から研究
7	長嶋 南美	幼児の言葉における両唇音の研究—初めての言葉ランキング 100 においての両唇音について
8	増田梨緒奈	コミュニケーションは何でできているか
9	松村 真愛	『推し、燃ゆ』から見る純文学の美しさ
10	八久保洋介	ファッションサイトに見るさらに英語化する日本語
11	安田 麗奈	差別・差別語の存在—人種差別に関する言葉の実態

ケイコ・ナカムラゼミ

1	浅間 智香	「アイドル戦国時代」と呼ばれた時代からの変化
2	浅輪 愛美	在日外国人に関する—考察：インタビュー調査を中心に
3	浦中 絢加	公認会計士になること
4	金子 守	大学生の読書習慣、読書量に関する調査

5	黒羽 瞳	The story of “Cinderella” that keeps changing with the times: Reading Cinderella from the perspective of gender studies and LGBT
6	小池 菜月	Why Shakespeare uses flowers
7	新開 美月	アメリカ映画から読み解く黒人差別・偏見と社会の変容
8	杉原 優香	Mindset and self-awareness: Changes and trends in mindset depending on the situation
9	高波 寛生	漫画・アニメのヒット作の傾向と社会的影響の関連性：アメリカの市場規模を踏まえて
10	竹澤 将太	コロナ禍での電車内行動の変化：電車内でのある行動が人に影響を与える可能性について／Changes in behavior due to COVID-19: The effects of various train behaviors on others
11	田中 結菜	Reaction of consumers to Limited-Editions: The relationship between curiosity and purchasing behavior
12	張 毅強	The difference between Chinese and Western views of marriage
13	松原 令奈	Language use in Disney animated films: A comparative study between the English version and the Japanese version
14	松本 一樹	日本人の信仰の崇拝偏移—無意識化の進行—
15	水上 晴日	HSP の人が幸せに生きるには
16	對馬 唯	色彩が人間の性格に与える影響

[Congratulations on completing your senior theses! Good job! K. Nakamura]

前田隆子ゼミ

1	熊井 良輔	日本企業のチームワーク形態の変化
2	新井あかね	識字率と幸福度に関する一考察
3	蛭名 玲音	エコカーは本当に地球に優しいのか—エコカー普及の課題—
4	大原 佑汰	日本の教育現場のジェンダー問題との向き合い方
5	小熊 祐貴	持続可能な社会と協働
6	片桐 光	環境問題の現状と対策—項目別重要度調査と地域別意識調査による分析—

7	上遠野空稀	幼児教育における協同学習の可能性
8	佐久間健祐	学校教育における協同学習の有効性
9	柴田 柚菜	各国の童話にみられる協働意識の比較
10	鈴木 涼平	日本と世界のジェンダー不平等に関する一考察
11	鈴木 涼平	協働のあり方の変容
12	諏訪部 倭	SDGs の達成に向けた地域活動—江戸川区と浦安市の取組み—
13	関 康太郎	差別問題に関する一考察
14	染谷 詩	住み続けられるまちづくりを—SDGs 目標 11 に関する一考察—
15	寺田 圭吾	協働的な組織—トヨタの「カイゼン」における協働の仕組み—
16	中島 悠	世界から見た日本の教育—教育観と教育方法の違いから生まれる学力の差—
17	初芝 正洋	スポーツにおける協働性—バスケットボールを事例として—
18	ラミレス・イ オナ・アラナ	飢餓問題に関する一考察
19	石井 裕美	A Study of Marine Pollution in China and Japan

松井順子ゼミ

	Presenter	Title	Interpreter
1	王 熙 Xi	Global Warming	NAKAJIMA YUTO
2	西出 梨花 Rinka	Video Streaming Services	YAKO AYAKA
3	伊藤 新菜 Niina	Alcohol??	WANG XI
4	尾崎 真穂 Mao	Sound Symbolic Effects of Obstruents and Sonorants in Character Names of the Fire Emblem Series	SAKAI AYU
5	酒井 安優 Ayu	Sound Symbolic Effects of Obstruents and Sonorants in Character Names of the Fire Emblem Series	SUZUKI KAREN

6	鈴木 かれん Karen	Sound Symbolic Effects of Obstruents and Sonorants in Character Names of the Fire Emblem Series	OZAKI MAO
7	富永 瑠華 Ruka	Everyday Stress	YOSHIZAWA RIO
8	中島 裕人 Yuto	Hobbies and Free Time	ITO NINA
9	八子 綾香 Ayaka	The Appeal of Motorcycles	NISHIDE RINKA
10	吉澤 梨央 Rio	Fashion and Sending Habits	TOMINAGA RUKA

(In order of year and Japanese alphabet 学年・あいうえお順)

【Unique, Valuable results/Amazing progress over the course of the seminar/Well-prepared bold interpretations!／June-ko Matsui】

金子義隆ゼミ

1	山口 直樹	高校英語の英語表現から論理表現への変更に伴う変化
2	伊集院 香鈴	LGBT—どうすれば日本で同性婚が認められるか—
3	押田 美咲	日本とデンマーク、フィンランド、スウェーデンにおける SDGs の取り組みの違い
4	斎藤 晴人	TOEIC と英単語語彙力の相関関係 —ボキャブラリーが増えることによって TOEIC スコアにどのような変化がでるだろうか?—
5	田中 友基	SDGs の闇
6	辻 慎太郎	漫画「ONE PIECE」に潜むメッセージについて
7	藤原 智輝	英語多読の効果と授業への取り入れ方
8	森山 樹	日本とデンマーク、フィンランド、スウェーデンにおける SDGs の取り組みの違い
9	小野 朱里	英語資格と WPM との関係性
10	黒田 明宏	世界各国の人種差別—歴史と乗り越え—
11	原 舞希	ゲームと教育

高野敬三ゼミ

1	金田 麗音	「戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て。どのような方向に進むのか」副題 過去の日本の英語教育についての私の意見
2	呉田 裕都	「戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て。どのような方向に進むのか」副題 過去の日本の英語教育についての私の意見

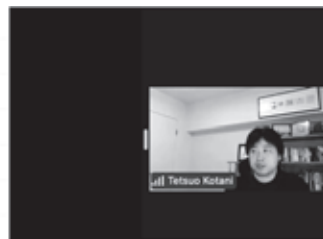
百瀬美帆ゼミ

1	五十嵐 彩 音・奥野 日菜	海外留学することの教育効果
2	伊藤 穂乃花	映画から学ぶ人の理解度分析
3	鵜沢 美里	領域「書くこと」の接続について
4	江川 有紗	学習マンガの効果について ～イメージを活用した英語教育～
5	嶋田 宗晋	テスト効果と分散学習を取り入れた語彙学習 －有効性と継続性を伴った分量とは－
6	高橋 勇氣	CLIL 学習に基づいた高校生に向けた授業展開と学習指導案
7	庭山 航瑠	これからの日本の英語教育をどうすべきか ～日本の英語教育の歴史から分かること～
8	矢吹 駿介	オンライン授業で生徒の学習意欲を維持するために

2021 年度英米語学科 卒業研究発表会

2021年度 卒業研究発表会

英米語学科



英米語学科では、3年次の「専門領域研究講座」および4年次の「卒業研究」で学生の専門性を高めることに力を入れています。2022年2月10日に、英米語学科主催の卒業研究発表会をオンラインで実施しました。学科の専任教員および多くの学生が参加しました。

発表者である二渡沙樹さんの卒業研究は、「新疆ウイグル自治区の人権問題—ビジネスと人権をめぐるジレンマと日本の対応—」と題して、ユニクロ製品の素材が新疆ウイグル自治区で強制労働によって製造されている疑いがあるという身近な話題から、グローバル化したサプライチェーン上の人権問題に国際社会、そして日本がどのように取り組んでいるのかを調査した上で、日本の企業がビジネス上の利益だけを追求するのではなく、人権問題という難しい課題に主体的に取り組む必要性を指摘しました。

3節 人権侵害に対する各国の対応

(1) 米国

- ・人権は建国の歴史に繋がる価値観
- ・トランプ前大統領によって軽視⇒中国を経済的な競争相手として認識
- ・2020年7月：認時機関を立ち上げる
→2021年1月13日：
- ・バイデン大統領は人権重視を強調⇒ウイグル問題を最優先課題とする
- ・2021年7月13日：企業・個人向けガイドラインの発表

(2) 日本

- ・2020年10月16日に、「『ビジネスと人権』に関する行動計画を策定
- ・「深刻な懸念」を示すのみで、具体的な制裁は行っていない
- ・日本版「マグニツキー法」を目指している



今回の卒業研究発表会を通じて、学修の大きな成果を確認することができました。

GSM フィールドワーク参加報告

GSM インターンシップ

ブランディング

3年 大田 貴美子

私は株式会社トップランクのインターンシップに5日間参加させていただきました。このインターンシップ全体を通して、面接官に好印象を与えることができる質問の仕方や、



人事の方から見るエントリーシートの印象、就職活動の定義、企業の調べ方、選考の仕組み、エージェントの仕組み、コロナ禍における新たな視点の学生時代に力を入れたこと等を学びました。私が最も勉強になったと感じた事柄は、人事の方から見る好印象な自己PRや学生時代に力を入れたこと、志望動機の書き方でした。大学から得た、自己PRと学生時代に力を入れたことの書き方、書くにあたってふさわしい強みやエピソードな

どの情報と、人事の方が考えるそれらの書き方や強みとそのエピソードの定義には大きく相違がありました。例えば「趣味を題材としたエピソードはふさわしくない」などの制約がなく、「自分はどのような人柄で、会社に対する熱量があるのか、入社してどのように貢献できるのか」を人事の方に伝えることがエントリーシートを書く上で最も重視すべき点であると学びました。

その中でも特に衝撃を受けたエントリーシートの書き方については、学生時代に力を入れたことを書くエピソードは面接官の興味を引き付ける内容で、また、自分らしさが出ていれば、恋愛や趣味に関することでも構わないというお話を聞き、私の中の固定観念が崩れ、今までのやり方感じていた疑問が晴れました。今回のインターンシップで学んだことは就活を進めていく上で深堀しつつ、さらには共に就活に励む学生と共有できればと思います。



インターンシップで得た経験

3年 小室 美遥

私は3年生の夏休みに2週間、千葉県浦安市役所の研修に参加させていただきました。私は兼ねてから公務員という職業に興味があり、特に地域創生や観光の分野に携わりたいという思いがありました。そこで、研修に参加することで自分が公務員として働くビジョンを深めたいと考え、今回の研修への参加を決めました。

研修では、商工観光課という課に配属していただき、ふるさと納税に関する営業の同行や資料作成、市民祭の会議への参加など、主に観光振興に関する業務を行いました。



研修を通して多くの経験をさせていただく中で、特にふるさと納税の電子クーポン導入の営業が印象に残っています。飲食店やホテルへの訪問に同行させていただいた際に、クーポン導入の話がスムーズに進まない場面など経験しました。しかし、粘り強く協議した末に多くの企業がこの件に賛成し、導入を決定していました。この経験から市役所は市民だけでなく企業とも密接に関わることが求められ、市の発展のために多くの努力が必要とされることを学びました。

また、研修中は常に効率性と正確性を意識して業務を行うように心掛けていました。特に資料作成を頼まれた際は、正確に作業が行えるように誤字・脱字を確認するとともに、業務の優先順位を立てることで効率よく業務を行うことができました。業務を終え職員の方にお褒めの言葉をいただいた際に達成感を感じ、自分の行った業務に自信を持つことができ、次の業務を行うモチベーションに繋がりました。

日数を重ねるごとに、浦安市の観光振興における課題やその解決策について考えられるようになり、最終日には具体的な政策等を盛り込んだ資料を職員の方々にプレゼンテーションしました。2週間という限られた期間ではありましたが、今回の研修を通して、職員の方々がどのような姿勢で業務に取り組み、市民と向き合っているのかを身をもって感じることができました。この経験を今後にも生かせるようにこれからも努力を続けようと思いません。

新しい選択肢

3年 鈴木 梨杏

私がインターンシップに参加しようと思ったきっかけは、就職先の選択肢を増やしたいと思ったからです。航空業界を目指していましたが、コロナウイルスの影響を受け、違う可能性も検討しなければいけなくなりました。他の業界を全く検討していなかったので、選択肢を増やすきっかけになれば良いなと思いました。自動車業界に興味があり、接客も経験したいと考えていたのでダイハツのインターンシップに参加しました。

研修では、自動車ディーラーの接客や事務作業を中心に様々なことを体験しました。初日と最終日は、本社で研修を受けました。作法やマナー、言葉遣いなど基本のことから、本社の方と接客対応のロールプレイングやグループディスカッションをしました。面接で使えるテクニックやコツを教えてくださいました。二日目からは実際の店舗で、研修をしました。社員の方々のチームワーク力を身近で感じ、接客はお店の第一印象で顔となりますが、お店は接客以外の仕事もあり成り立っているのだなと思いました。

この経験を通して学んだことは、2つあります。一つ目は、「チームワーク力」です。全員がインカム着用し、お客様に質の良い接客ができるよう情報を共有していました。周りを見て相手の行動を考えて自分も行動することが、お客様に寄り添った対応に繋がっているのかなと思いました。二つ目は、「行動を起こすこと」です。お客様に対しても仲間に対しても積極的に意見をし、行動を起こすことがチームワークに直結するだけでなく、自分

の仕事のやりがいも感じると思いました。

このインターンシップで、改めて接客業に就きたいと決心が付き、様々な業界を選択肢として考えることができました。働く姿勢や心構えを知ることができました。実務のあるインターンシップは今回が初めてでしたが、とても貴重な経験ができました。



インターンシップに参加して

3年 重岡 メリアン明子

私は、就職コンサルティング情報会社、株式会社ジェイ・ブロードのインターンシップに参加しました。そこでは、コンサルティング業界やビジネスマナーを学び、コンサルティングや広報物作成などの体験、営業同行、グループワークをしました。

インターンシップに参加し学んだことは2つあり、会社の雰囲気、就職活動について学ぶことができました。

まず一つ目の会社の雰囲気については、お客様に対する姿勢、そして企業理念のお客様に寄り添う力について学びました。お客様には様々な方がいて、それぞれ問題違う悩みを持っており、お客様に最適な解決策を見出すには親身になってお客様に寄り添うこと、そしてたくさんヒアリングを行うことが大切であることを学びました。

二つ目の就職活動については、営業同行をした際にほかの大学の就活状況について報告があったのですが、自分以外の学生の就職活動に対する熱意などが伝わるため、今のままではいけないという気持ちが芽生え、奮い立たされました。また、自分がどうすればいいのか今後の課題を見つけることができました。

インターンシップに参加することによって、就職活動に対する意識が変わりました。また、1日の振り返りと翌日の目標を立てることによって目標達成を意識し行動をするため一日が充実することを実感し、目標設定の大切さを学びました。今では、日記をつけるようになりました。

茂原市役所での経験

2年 萩原 楓佳

2021年の夏休みに6日間、千葉県茂原市にある茂原市役所のインターンシップに参加させていただきました。私は将来、地方公務員として市役所に勤めたいと考えており、インターンシップに参加することによって、どのような業務があるのか、職場環境などを詳しく知ることができると考えました。また、茂原市出身の友人が市の魅力をよく話してくれ、私自身も茂原市に興味を持ったため、茂原市役所のインターンシップを志望しました。

今回、市役所企画政策課で実際の職務を体験しました。企画政策課は、企画調整係、統計係、男女共同・国際化係、政策推進室の4つに分かれています。同じ課でも係によって業務が異なり、執務室内だけでなく、庁舎外でも地域の人びとにお話を伺う機会があり、幅広く業務に取り組むことができました。企画調整係では、ふるさと納税の生産者訪問や公共施設の見学を行い、茂原市の現状や生産者と市役所の関係性について知ることができました。統計係では、統計処理したデータのコンピューターへの入力、統計調査員の方々の

お話を伺いました。そこで、統計調査の大切さや統計調査員の仕事内容について知ることができました。男女共同・国際化係では、姉妹都市の展示のリニューアルに携わることができました。自分たちでアイデアを出しながら作業を進めたため、達成感を得ることができました。企画推進室では、映画やドラマ等の撮影に立ち会い、地方創生の戦略などを知ることができました。私はこの茂原市のインターンシップを通して、職務を経験することに加え、市役所の方々の地元愛を感じるすることができました。

私も地域の人々が住みやすいまちづくりに貢献したいと思い、市役所で働きたいという気持ちが高まりました。この経験を、これからの学校生活、就職活動だけでなく、社会人となってからの生活にも活かしていきたいと思います。



ホスピタリティの重要性

3年 長谷川 優花

8日間の短い期間でしたが、ホテルエミオン東京ベイの様々な業務を経験させていただきました。中でも、長時間経験させていただいたロビーサービスの業務は、午前中は、仮チェックインを済ませたお客様の荷物をお部屋まで運びます。午後は、お客様をお出迎えし、荷物をお部屋まで届けたり、貸し出し品などお客様からのご要望があった際にお部屋にお持ちします。私はこの業務を経験して、ホテルで働く方の大変さを知りました。今までホテルを利用していた際は、部屋に着くと荷物が届いているのが当たり前でしたが、これはホテルの方たちの働きがあってからこそだと改めて気付かされました。また、荷物を

運ぶというシンプルな業務かもしれませんが、荷物を届ける部屋を間違ってしまったたりすると大変なことになってしまうので、慎重に確認することが重要でした。また、幅広く動く業務なので、思っていたよりも体力を使うことを知りました。その上、お客様にとってホテルでの宿泊は旅の思い出の一部となるので、良いものにしてもらえるよう笑顔で丁寧に挨拶をすることが欠かせません。このように周囲に気を配り、慎重さと体力を必要とするホテル業界の仕事の努力を感じることができたと思います。従業員の方々にやりがいをお伺いすると、お客様からのありがとうを直接聞けることだと、皆さん口を揃えておっしゃっていました。これは実際に私も働いていて、明るく挨拶をしてくださったり、大袈裟なくらいにありがとうとおっしゃってくれるお客様から元気をもらいました。

私は、ホテルでのアルバイト経験が全くなく、ホテルに関しての知識もなく非常に不安でした。しかし、ホテルで働く方たちは非常に親切な対応をしてくださりました。お客様に満足していただくためには、まず従業員が気持ちよく働ける環境を作ることが大事だと人事の方はおっしゃっていました。私はまさにその通りだと思い、この経験を踏まえて、今後は社会人として働いて行く上で働きやすさを大切にしていきたいと思いました。

今回のインターンシップを通して、ホテル業界についての理解を深めることができ、自分自身の成長に繋がったと思います。学ばせていただいた多くのことを学校生活や就職活動、社会人になってからも活かしていけるよう努力していきたいと思います。

My First Working Experience

Mizuki Yarita (2nd year)

I spent six days of my summer vacation participating in an internship at Mobarra City Hall. I worked in the Planning and Policy Department, and it has four sections: Planning and Coordination Section, Statistics Section, Gender Equality and Internationalization Section, and Policy and Promotion Section. The section that left the most significant impression on me was the Planning and Coordination Section because I visited the producer of the Hometown Tax Donation program and it completely changed my image of city hall work. I had thought working at city hall was mainly office work, but when I actually worked there, I realized there is a lot of work that involves direct interaction with people. In addition, I learned manners and etiquette as a member of society by meeting not only staff members but also other people in a way that I would not experience in most part-time jobs.

When I asked the staff members about their work satisfaction, they said that when they are appreciated by citizens, they feel what they are doing is right. I thought that they

are confident in their work because they keep doing various tasks, even small things. At that time, I realized again the importance of trying to continue and I thought that is something I must not forget in my student life, job hunting, and working.

I experienced working for the first time through this internship, so there were moments I felt it was hard to be in an unfamiliar environment. However, I learned a lot of things: social manners and the importance of continuous effort, so this internship was a valuable experience for me. From now on, I would like to challenge myself to do everything, sparing no effort.



GSM ボランティア報告会

2022 月 1 月 20 日 (木)、ボランティア活動に参加した英米語学科の総勢 44 名による報告会が行われました。冒頭で、小林学科主任による挨拶がありました。



今年度も、新型コロナウイルスの脅威に伴い、従来のインターン、海外渡航などの機会を中止せざるをえない状況となりました。そのような中、『ふれあいの森公園を育む会』代表の後藤ご夫妻にご快諾頂き、今年度も無事に実現の運びとなりました。後藤様は、長期間にわたるボランティア期間であったにもかかわらず、温かく迎え入れて下さいました。夏の暑い中も、学生を励ましながらか全員が無事に所要時間を達成できるよう支えて頂き、外国語学部一同、感謝の念が尽きません。参加した学生からは、「楽しかった」という声が次々と届いています。

私たち明海大学浦安キャンパスの関係者は、地域の皆様に支えられ、お世話になりながら、地域の一員として関わりながら成長する機会に恵まれていることを改めて実感した次第です。日々の通学路や公園が綺麗であるのは、綺麗にして下さる方々の存在があつてこそ。子供時代の生活や、公園で遊んでいるときには気づかなかった舞台裏に、今回の体験を通して初めて気がついたという学生も多くおります。この経験を活かして、社会人となった後も、一生懸命、誰かのために働くことの尊さを大切に、立派に活躍して行って欲しいと願っています。(小林裕子)

その後、参加した学生全員による報告がありました。



後藤様ご夫妻をはじめボランティアの皆様が温かく歓迎して下さったこと、優しく丁寧に教えて下さったこと、おいしいご飯も頂いたこと。報告からは、人生の先輩にあたる地域社会の皆様との交流を通し、学んだ様子が鮮やかに伝わってきます。最初は、一つの花壇への水やりにも1時間以上もの時間を要することも知らず、一つの花壇を作り上げるまでの果てしない過程に驚きます。除草して、シャベルで土を平らにならし、季節の色とりどりの花を、1つずつ見栄えがよくなるよう丁寧に植えていき、たっぷり水をあげて、初めて一つの花壇が完成します。もちろん、日々の清掃も欠かさず、雑草を抜くことや、季節ごとの花の植え替えも大切です。草刈り機の使い方と、手入れの方法も教えて頂きました。後藤様ご夫妻やボランティアの皆様によるひとつひとつのきめ細やかな配慮と地道な作業の積み重ねによって、一つ一つの美しい花壇が成り立っていることを実感します。繊細な花に直接水をかけるのではなく、土壌に近い根元の方に、優しく潤いを届けること。

参加を通して、四季折々の彩りを感じる場面もありました。春先に向けては、桜の選別にドライフラワー。夏に向けては公園の清掃と種まき。田植え体験に、田んぼで近隣の幼稚園の子どもたちが埋えた稲をまとめる作業。夏休みには、毎日の水やりにも、唐辛子飾り。力仕事で汗を流し、休憩時間に頂いたお弁当と感謝の言葉が美味しい。「タオルに水を下さい」と近隣のお兄さん、予想以上の感謝を受けたことが印象に残っています。自分が植えた種が、すぐに稔っていく早さに驚き、脱穀機も操縦しました。10月頃には、冬野菜にバジルの風景。冬に育つハーブ、花の種類を教わり、自宅でローズマリー、ガーデンシクラメンを育ててみたいと思うことも。

人生の先輩達から、明海大学の先輩達との思い出を伺って、私たちもお世話になってい

る今をかみしめます。私達の一つ一つの行動が積み重なって、地域との結びつきが芽生え、固い絆へと成長していくこと。夏の暑い中も、冬の寒い季節も、元気に清掃活動に励む後藤様ご夫妻、ご年配の方々の後ろ姿に、自ら率先して人の役に立とうとする社会人としての理想像を見ました。

最後に GSM の小谷先生より総括がありました。今後の発表改善に向けての具体的な助言もあり、反省点があれば今後の糧として、体験を活かして欲しいと激励されました。



「地域全体を良くすることを通して、自分達の環境を良くするということ。公園を綺麗にすることは、綺麗な場所で皆が遊ぶだけでなく、治安の向上、ひいては自分達で自分達の環境を良くしていくことに繋がります。企業にも、自分たちが所属する地域・社会に貢献することが求められています。今後、皆さんが社会人となってからも同様に、今回の学びを活かして活躍していくことを強く願っています。」(小谷哲男)



GSM ボランティア：オリンピックボランティア

オリンピックボランティア

4年 西出 梨花

私は2021年の夏休みの一週間で、東京オリンピックのボランティアに参加しました。テコンドーという競技のフィールドキャスト FOP プラカードチームとして、選手・コーチ・ドクターが試合会場へ入場するときの誘導をしました。誘導するだけなら簡単そうに思いますが、様々な国籍の人がいて言葉が通じない中での誘導は想像以上に大変でした。それだけでなく、オリンピックという大きな大会での試合直前ということもあり、緊張感が凄く、ピリピリした空気感もあり、簡単には話しかけられない雰囲気の手もいました。さらに、コロナウイルス感染防止対策で、できる限り会話は最小限にしてアイコンタクトで



誘導するようになるなどの指示もあり、思ったように伝わらないことも多くて苦労しました。

私は人前に出ることや目立つことが苦手なので、テレビにも映るようなプラカードチームに選ばれて、最初は正直やりたくないという気持ちもありました。しかし、実際にやってみて終わった今では、この経験が出来て良かったという気持ちがとても大きいです。これは、一緒に活動してくださった方々全員が優しく、沢山助けてくださったからだと思っています。どうしたら試合が上手く回るかを話し合ったり、国名の間違いないか

を確認するために一緒に国名を覚えたり、楽しみながら活動ができました。

何気なくテレビで見ていると気付かませんが、他にも様々なボランティアの仕事があり、見えないところで動いてくれている人が沢山いると改めて知りました。分単位で動いていく試合を時間通りに運営するために、このような裏での仕事が必要だとわかりました。ボランティア全員で協力し、無事に一つの大会を成功させることができたのは、とても良い経験になったと思います。大学生活最後の夏休みに、たった一週間でしたが、オリンピックに関わることができ、充実した日々を過ごすことができました。

GSM ボランティア：弁天ふれあいの森

4年 中島 悠

6月の後半から、弁天ふれあいの森公園でのボランティアに参加させていただきました。「ふれあいの森公園を育む会」の代表の後藤さんをはじめ、他のボランティアの方々にも教えていただきながら公園内での様々な整備をお手伝いしました。

公園を維持するためにやることが毎日のようにあり、雑草抜きから、苗づくり、そしてその苗を植えたり、また花壇の整備以外にも、公園外周の掃除や、道具の掃除など沢山のことを経験させていただきました。教えていただいたことは、これから活かせることが多くあり、今後植物など育てようと思った時に、思い出してやってみたいと思いました。

また、力が必要な仕事や、人数が必要な仕事などが多く、もっと沢山の若い人たち、私たちの世代が日頃からボランティアに参加するべきだと感じました。どれも公園を豊かに、そして安全にするために必要なことで、このような仕事を毎日のようにやってくれる方々がいるからこそ、私たちは豊かな公園の中で遊んだり、お散歩したりできるのだと感じました。

今回ボランティアに参加させていただいたことによって自分が感じたことや学んだことをこれからの生活に活かしつつ、また参加できる機会があれば、地域のボランティアなどに参加したいです。



弁天ふれあいの森公園でのボランティアの感想

4年 竹澤 将太

私は、2021年6月からボランティア活動を始め、2021年の10月初頭まで長期間行いました。作業としては、花壇の水やりや清掃、苗を入れていたポット洗い、雑草抜きといった簡単な作業から、特別な作業として春先への準備として桜の挿し木を行ったり、ドライフラワーを吊るしたりと、様々な体験を得られました。こういった作業の中で、「ふれあいの森公園を育む会」に所属している方々との関わり合いやお話で様々なことを学ばせていただきました。一例挙げると、ボランティア活動への活力についてです。私は、ボランティア活動をあまりしたことがなく、イメージとして無償で活動を行い様々な方から「ありがとう」という言葉を頂くことだと思っていました。ただ実際に活動してみると、「ありがとう」

と言ってもらえることはあまりありませんでした。未熟だった私は、感謝も頂けない中でどう活力を出してボランティアを行うのか分からず、会員の方々に聞いてみました。そこ



での回答として、『『ありがとう』をいつでも、必ずもらえるとは考えていない。ただ、もらえない訳ではなく、たまに頂く言葉が心に染みてやめられない』と聞いてハッとしました。このような素晴らしいボランティア活動に参加できて本当によかったなと思います。

また会員の方々は、自分たちの人生の先輩でもあるので、他愛もない話から昔の弁天ふれあいの森公園についても調べてよかったです。「ふれあいの森公園を育む会」の代表である後藤さんには、スケジュール調整や作業の指示を頂き、ボランティア活動がスムーズに行えました。本当に有意義な時間でした。

ボランティア活動

4年 對馬 唯

2021年の夏。昨年度は中止されたボランティア活動がスタートしました。浦安の7月の気温は非常に高く、厳しい暑さの中、参加者は一生懸命作業に励みました。

任された作業は、大きく分けて、公園や花壇の整備、花を植えるための準備作業、花を植え終わった後の作業の3つです。細かい仕事から力仕事まで、さまざまな経験をしました。

特に印象に残っているのは、種まき。花を植えるための最初の作業です。種の大きさは大小バラバラで、中には肉眼で確認するのが難しいほど小さいものもありました。その種を一つずつ正確に土に埋めていく作業は高い集中力が必要で、数人で作業しているのに無言になったことを覚えています。植えた種の中には発芽しないものもあるそう。数日後、無事苗まで成長した姿を見た時の感動はより大きいものでした。

今回のボランティアを通じて学んだこと、それは、「自然が作り出す人とのつながり」です。ボランティアに参加している方々は、「自然をもっと増やしたい、作りたい」という思いで花と緑で溢れる公園を作り、公園を訪れた方々はそこで誰かと出会い、趣味などのつながりを持っていました。

最後になりますが、このような情勢の中、私たちのボランティア活動を引き受けてくだ

さった後藤さんをはじめ、「ふれあいの森公園を育む会」の皆さま、関係者の方々、そして、このような機会を設けてくれた学校関係者の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



Multilingual and Communication Center (MLACC) 活動報告

AY 2021-2022 MLACC Instructors: Patrizia Hayashi, Tyson Rode, David Phillips, Benjamin Maynard, Pierre Allec, Marisa Lucian, Robert Moriarty, Timothy Kleisinger

The Multilingual and Communication Center (MLACC) strives to be at the heart of students' English language learning. With eight instructors from three different English-speaking countries, students receive a broad range of language and cultural instruction. Our instructors not only teach many of the Intensive Language Program classes, but also provide a variety of support services at MLACC to assist students to expand their English skills and abilities. We encourage students to take advantage of the opportunities that we offer.

MLACC Helps You Find Your Shining Potential



If you are serious about becoming a better English user, MLACC is the first place you should go! One of the most important things we do at MLACC is offer one-on-one support. Maybe you have an upcoming Eiken test or a speech contest, and want to improve your pronunciation. Or you want to do your best performance on your next presentation or group discussion. Perhaps you've already made a study plan, but you want to

know if it's really a good way to make progress. Maybe you don't know where to start! Come in to MLACC on the 2nd floor, say hello to our staff, and sign up for an afternoon appointment. There's always a teacher on schedule to sit down with you and help you become a better, more confident learner. Even one 15-minute session of one-on-one work can help push you toward your goals! Our wonderful staff can answer any questions for

you, and we have a full library of test prep, pleasure reading and newspapers available to support your studies. If you come, we promise that you'll leave feeling better about your skills and yourself!

English Zone: Where English Soars

English Zone is a wonderful place to engage in and enjoy English in a relaxed setting. We have many books, magazines, question cards, and discussion activities for students to try out. Students are welcome to come alone or with friends. By making use of this space, students can apply what they learn in a practical way. Those students who regularly visit English Zone have been able to improve their English scores, develop their spoken and listening fluency and become confident communicators. In addition, every month, themed activities called, "English Zone Challenges," serve to expand students' worldviews and reinforce the skills they are learning in class. This academic year, in particular, saw a significant increase in the number of students who contributed their artful ideas to the



social atmosphere in the English Zone. Students who visit the English Zone can schedule appointments to reserve seats in the room or to get individual support for their study needs.



social atmosphere in the English Zone. Students who visit the English Zone can schedule appointments to reserve seats in the room or to get individual support for their study needs.

Integrated English I and II: Building on Foundations and Expanding Horizons

The first-year Integrated English program at Meikai University is a great place to start your English journey and gain confidence in your speaking skills. Students begin with



basic English phrases and grammar and the program is designed to develop their knowledge to the point where they can hold multi-person conversations in English. This year, we covered a range of topics and watched and discussed fun videos in classes.

In the first semester, we learned about Dublin and practiced giving our opinions on different activities with reasons. Are you a fan of mascots? We had a unit where students learned how to ask for and check their understanding of what people said by drawing mascots that their partners described. In the second semester, we began to build students towards having English conversations with multiple people. There are difficult skills such as group management, direct and open questions, and reacting in English to the group. From fun topics like music and art to difficult ones like disabilities in school, students in the Integrated English program learn to express themselves and converse in English.



Integrated English III and IV: Captivating Capstone Projects

This year was a year of many sweeping changes in Integrated English (IE). In the second year IE course, the nature of both some tasks and the final speaking test were modified to enable a group-based approach. The breadth of discussion skills covered this year was also expanded, which allowed for



increased collaboration between students as well as greater depth of discussion. It was a challenging year, with only half of the classes being conducted face-to-face, but the



majority of students were able to rise to the challenge with encouraging results.

Both the focus and scope of the second year IE course were also dramatically expanded to include high level skills, such as research and analysis of global topics. This culminated in a capstone project which involved both a group presentation and problem-solving group

discussion. This new focus required a high degree of learner autonomy combined with active group work. In support of their presentation and discussion, students were

required to provide fully-referenced facts and statistics from trustworthy sources. By implementing this new approach, the second year IE course went above and beyond the traditional four skills-based framework to incorporate essential higher-order skills such as critical thinking and reflection, thus encouraging a greater academic focus and higher degree of metacognition among students.

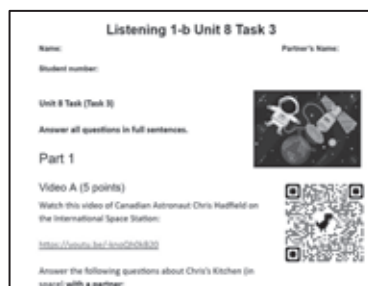


For all IE students, the ongoing situation with the pandemic has presented a raft of unique challenges as students were forced to adapt to new ways of studying. Despite these difficulties, we are pleased to report that the vast majority of IE students exceeded our expectations throughout the academic year.



Listening I and Listening II: Let's Hear It for Listening!

The first- and second-year listening classes used an array of engaging activities based on which the students demonstrated their skills throughout each semester. The instructors designed three sets of interactive tasks to supplement the textbook. First, the Practical Listening Tasks offered additional listening activities that went beyond the scope of the CD, such as by utilizing videos. Second, the Unit Tasks built upon this style by asking the learners to delve deeper with a critical thinking component. These activities were challenging yet fun and covered topics such as the Olympics, fashion, space tourism and law. Finally, students were given the freedom to select their own media for the Listening Logs. Each of these were completed autonomously. This encouraged students to find something in which they were interested and on which they wanted to report. These three categories of tasks offered a variety of listening activities that captivated their attention. Moreover, they provided the students with opportunities to showcase their talents as well as how much they had improved as they progressed through their studies.



Writing I and Writing II: From Paragraphs to Essays

The first and second year writing programs develop the students' academic writing and critical thinking skills. In addition to useful grammatical structures, common writing styles are covered. These included writing about processes, giving opinions, and descriptive writing. In the first-year writing curriculum, students mastered the skill of paragraph writing. These

paragraphs are important building blocks for the many kinds of writing they will do in the future. Meanwhile, the second-year students displayed their talent for research and self-expression. The challenging skill of using



citations was practiced all year, and the students did a wonderful job with it. The opinion essays showed their reasoning skills through topics they were passionate about. They gave excellent arguments for and against topics as diverse as gender equality, nuclear power, and the death penalty. The students worked really hard to compose academic essays in English and demonstrated considerable growth in their writing skills by the end of the year!



Teacher Training: Teaching is Learning and Learning is Teaching

English major students who choose to pursue a teacher's license at Meikai take numerous courses on how to teach in English. Teacher trainers are always welcome to practice at MLACC or get their homework checked. From this year, there is a new course



where students can take a theory they have learned in the classroom and apply it in practical ways. This course is called *Four Skills for Teaching* and is a required class in the third year. Students in the class had an exciting year of learning how to teach science in English, debate and communicative activities.

Teachers are required to have a very high level of English by graduation. MLACC, in cooperation with METTS, works with fourth-year students to develop the skills they need to pass the teacher's licensing exam. We strongly recommend that students interested in English actively use the English Zone throughout the four years to strengthen their speaking and listening fluency, and to build confidence.





Intensive Course: Advance Your English

This year, we welcomed back the popular Intensive Course. As its name suggests, the Intensive Course is an intensive experience where students study English for five hours each day. The goal of this course is to raise the students' speaking, listening, and writing fluency, as well as give them powerful presentation skills that they can use in their future jobs. While there are many activities in the course, some of the highlights include a mini-model UN and a final TED Talks-style presentation. This year, the course has been redesigned to focus on students with a TOEIC score of 600 or over. Students joined from several departments and had a chance to make new friends from across the university.



名古屋外国語大学主催 学生通訳コンテスト参加報告

外国語学部英米語学科 2 年の山西啓太君が、11 月 27 日（土）に名古屋外国語大学主催の第 15 回学生通訳コンテストに参加しました。

「新たな日常」と人間性に向かって The quest for humanity's “new normal” というテーマのフォーラム形式のイベントで、山西君は、抽選で「環境への影響 Impact on Environment」というトピックが当たり、エネルギーや気候などについて通訳しました。

本年度も、昨年に続き、オンライン形式のコンテストとなりましたが、数か月にわたって、三大学がオンラインで共同で学習することができましたので、他大学の交流をはかり、勉強をする仲間ができたことも大きな収穫でした。

名古屋外国語大学主催学生通訳コンテスト

3 年 山西 啓太

名古屋外国語大学主催の逐次通訳コンテストとは、全国の国際系大学にとって最も大切なイベントの一つであると言われております。逐次通訳とは、英語で話された内容をメモしてそれを日本語に訳して発話するというものです。2020 年、2021 年と続いて、未曾有の新型コロナウイルスに脅かされる中、今年に通訳コンテストのテーマは、「《新たな日常》と人間性に向かって The quest for humanity's “new normal”」というものになりました。今年は全国 11 の大学から選ばれた 11 名の学生が、通訳の正確性を競うこととなりました。その大会に、逐次通訳などもちろん未経験の私が出場することになったのです。

通訳コンテストに参加した理由は単純で、「好奇心」からでした。「良い経験になるだ

ろうし、減るもんじゃない」という思いで、逐次通訳コンテストについてのお知らせをいただいた際にすぐに応募しました。逐次通訳の練習は zoom を介して行われました。そこには明海大学の学生だけではなく、他大学の学生も参加しており、これが私にとって初めての他大学の学生との交流となりました。この



練習は週に二回行われ、他大学の教授も逐次通訳について伝授してくれました。練習では、他大学の学生の英語力を観察し、私の英語力の立ち位置を確認できる良いチャンスでした。逐次通訳コンテスト開幕の直前では、事前に発表された、コンテストに出るトピック関連の単語を分析し、文章を作るという作業がありました。新型コロナウイルス関係の難しい単語や専門用語を使って文章を作らなければなりません。とても苦労しましたが、専門用語を覚えることができる絶好の機会であり、終始楽しむことができました。

通訳コンテスト本番、私はかなり緊張しており、私の番が来るまでトイレに何回も行くという始末。しかし、私の心には「勝利」ではなく、「楽しむ」という最終目標がありました。その目的を決めればあとは簡単、楽しんで臨むだけです。私のトピックは「環境への影響」というものでした。私の番が回ってきたころには緊張はあまりしなくなっており、リラックスして臨むことができました。そのおかげで、今までで一番良いパフォーマンスを発揮できたと思います。賞こそは獲得できませんでしたが、他大学の学生との交流、英語力の観察、新しい単語・専門用語を覚えることができ、とても良い経験となりました。

最後に逐次通訳コンテストの練習に尽力して下さった、松井順子先生、高崎経済大学の関口智子先生、そしてともに練習をした仲間たちに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました！



英米語学科同窓会 明英の会の活動報告

卒業後も学び続けられるように

明英代表 川部 翔

明海大学学国語学部英米語学科同窓会「明英」代表の川部です。この同窓会組織も皆様のご支援を得て16年目を迎える事が出来ました。今年度も新型コロナウイルスの影響で、恒例の親睦パーティーが実施できませんでしたが、できる範囲で事業を行ってまいりました。

2021年8月には、2日間にわたって、第21回関東地区高等学校英語教育研究協議会「千葉大会」が明海大学で実施されました。大会内において、本同窓会副代表の滝口さんは、全体の取りまとめをされたり、全大会で発表を担当されたりしました。滝口さんをはじめ、明海大学を卒業して千葉県の教員として活躍している方が多くいらっしゃいます。コロナ禍での教育活動は非常に難しい部分が多いですが、明海卒の先生方がイキイキと活躍できるように、同窓会としてもできることを検討してまいります。

12月には、毎年恒例のクリスマスカードとともに、15周年記念として、抗ウイルスマルチパッドを会員の皆様にお送りしました。マルチパッドには、大学の航空写真を使用させていただき、大学時代の思い出を振り返ることができるようにいたしました。また、クリスマスカードには、浦安キャンパスが描写されています。



Meikai University Urayasu Campus
English Department Alumni 15th anniversary

ANTIVIRAL MULTI PAD



明海大学浦安キャンパス同窓会「明英」も皆様のご支援を得て、15周年を迎えることが出来ました。卒業も、社会活動を見ながら、可能な範囲で同窓会の事業を実施してまいります。15周年を記念して、抗ウイルスマルチパッドを作成いたしました。浦安キャンパスの写真を描いただけでなく、学舎内も思い描いていただければ幸いです。同窓会のクリスマスカードが本会の代り、メールマガジンなどを発行予定です。ご協力のほどお願いいたします。
今年度も恒例のパーティーの実施にはなりませんでしたが、2月に津原副代表のオンラインセミナーも実施する予定です。詳しくは裏面の案内をご覧ください。皆様からのご声援もお待ちしております。卒業後も学び続けられるように同窓会を創出し、継承・発展してまいります。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。
2021年12月 川部翔代表一稿

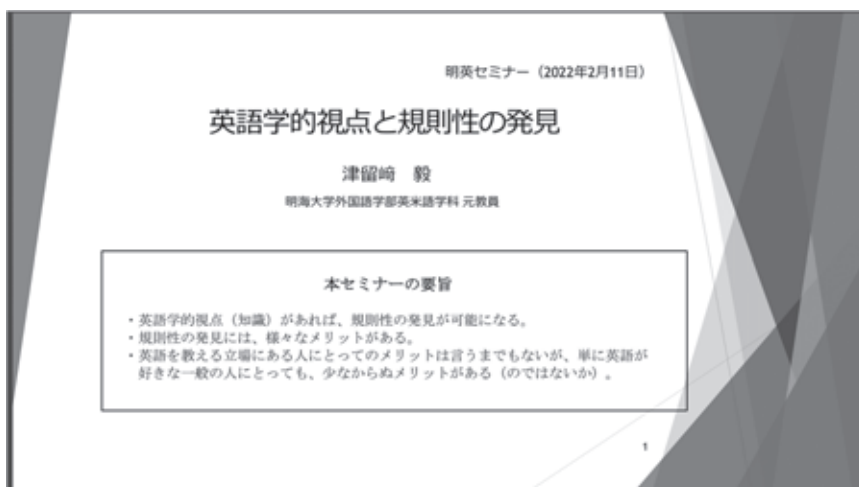
2022年2月には、英語学に関するオンラインセミナーも実施されました。(右記に報告。)

来年度以降も、柔軟な姿勢で同窓会事業を展開してまいります。在学生の皆さんは、卒業後、様々な情報をお届けしますので、イベントなどに

ぜひご参加ください。先生方におかれましては、コロナ禍で大変だと思っておりますが、くれぐれもお体を大切になさってください。同窓会として、何かお手伝いできそうなことがありましたらぜひご連絡ください。

明英の会の15周年記念 セミナー（報告：松井順子先生）

2022年2月11日（金）に明海大学浦安キャンパス同窓会 明英のオンラインセミナーを開催しました。「英語学的視点と規則性の発見」と題しまして、久しぶりに英文法について真剣に学び、その後の懇親会では、会員と先生方との親睦を深めることができました。幅広い世代の卒業生が参加しましたが、第二部のオンライン懇親会で近況報告をしながら、楽しい交流のひとつときを持つことができました。大学の歴史、同窓会明英の「学び続ける」伝統、そして変遷を感じる同窓会でした。今後とも、会員の皆様の学びにつながり、心が温まるような企画を続けられるよう、役員一同つとめたいと思っております。



卒業生からの手紙

「今」を大切に

白河 光薫

「クジラは森林並みに大量の炭素を“除去”していた——米調査」

「日本は世界で4番目に気候変動のリスクが高い国に 台風・豪雨影響…国連レポート」

「家事や介護に1日4時間 中高生の5%がヤングケアラー」

これら3つのタイトルは、2021年度中に私が関心を持った数多くあるニュース・記事の一部です。2019年3月に明海大学を卒業し、市役所に入所して3年目となる現在も、日本のみならず、世界で起きていることに目を向け続けています。これは、大学4年間で身についた習慣です。

学生時代を振り返り、様々なことに挑戦し、マイペースですが毎日コツコツ学んできたことは決して無駄ではなかったと、社会人になった今、実感しています。在学中は、UCLA 海外派遣や GSM フィールドワークでインターンシップに参加するなどしました。UCLA 海外派遣に参加したのは2年生の夏。極度のホームシックになったことを鮮明に覚えています。アメリカ到着時にはネイティブスピーカーの話す英語を全く聞き取ることができず、授業についていくのも精一杯でした。それが1週間も経つ頃には慣れてしまい、休日、外出先で初対面の現地の方に話しかけている自分がいて、自分自身の変化に驚きました。参加前は、些細なことでチャレンジする前から悩み、目立つことを嫌っていましたが、現地の方々のおおらかさや思いやり、多様な生活スタイルに触れて、「とりあえずやってみよう」「どうせ目立つなら、良いことで目立ちたい」と、考え方がちょっぴり変わりました。また、インターンシップでは、浦安市役所高齢者福祉課で10日間お世話になりました。庁舎内の業務だけでなく、認知症カフェや特別養護老人ホームに実際に足を運び、利用者の方々と直接お話しできたことはとても貴重



な体験でした。そして、市の高齢化率や主な施策などの事前リサーチが不足していたことに気づき、何事も事前準備がとても大切だということを改めて痛感しました。

上記のような経験や日々の授業に加え、自らのレベルアップのために、通学の電車内では毎日読書をしたり、気になったニュース・記事を自分なりに手帳にまとめるなどしました。読書はもともと大好きで、在学中は「明海大生としての権利を乱用した」と言っても過言ではないくらい、たくさん本を借り、頻繁に図書館に入り浸っていました。文字や紙、印刷技術や製本技術は、人類が生み出したものの中で特に素晴らしいものだと私は思っています。そして、気になったニュースや記事の内容を自分なりに手帳にまとめて書き残すことで、世の中で起きていることに目を向け、理解し、深く考える時間を大切にできていると思っています。

現在は、市役所の介護保険課という部署で、介護保険サービスの給付に関する業務を担当しています。具体的には、市民対応はもちろんのこと、利用者の金銭的負担を軽減する制度の事務、県や国への報告、補助金等の申請、制度改正に係る対応などです。介護給付費の財源は、税金や市民が納めた介護保険料で賄われているため、日々、市の財政に関わっていることを自覚するとともに、責任をもって職務を遂行するよう努めています。法令や規則、数字とにらめっこしなければならないことも多く、複雑な制度を理解し、市民に分かりやすく説明したり、制度改正の対応をしたり、大変なことも多くありますが、新しい知識や経験を吸収できたり、市民から「説明が分かりやすかった」「話を聞いてもらえて安心した。相談してよかった。」と言ってもらえるなど、やりがいも大きいです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、市役所での業務も大きな影響を受けています。明海大学でも遠隔授業と対面授業が混在したり、就職活動にも変化があったのではないかと思います。今まで経験したことのない状況に不安を感じた方も少なくないでしょうが、大学4年間を「自分に投資できる人生最大のチャンス！」と考えて、学びに向き合うことの大切さは今も変わらないと思います。私自身、社会人になってからは勉強できる時間が減ってしまい、「学生時代にもっともっと勉強しておけばよかった」と感じています。おそらく、どんなに勉強しても「もっとやっておけばよかった」と思うのですが、学生時代に積み重ねた努力は決して逃げて行ったりしません。困難に直面した時、最後の最後まで自分の味方になってくれます。学生時代にしかできない勉強や経験を大事にしたいと思います。そして、紙の本を読み、紙の新聞に目を通してください。スマホやPCはとても便利ですが、同時に2つ以上の記事を読み比べたり、深く理解・考察するために何度も読み返したりするには適さないと思います。画面をスクロールするたびに通過していく情報に頼るのではなく、自分の力で調べ、じっくり考えることを大切にしてください。

最後に、先の見えない、変化の激しい世の中ではありますが、皆さんには家族や友人、そして愛情をもって指導して下さる先生方がついています。困った時や悩んだ時は遠慮なく相談し、1人で抱え込まないでください。そして、お互いに切磋琢磨できる友人を大切にしてください。周りの人や、自分の恵まれた環境への感謝の気持ちを忘れずに、皆さんが今後も大きく成長し、活躍されますことを期待しております。

大学生活の4年間で、その先の40年を決める

安藤 真樹



2019年春に明海大学を卒業し、楽天グループ株式会社に入社して約4年が経ちました。現在は楽天モバイル株式会社の基地局設置統括部の Casa 事業部という組織で副課長として仕事をしています。業務内容としては主に二つ。一つ目は Docomo、KDDI、Softbank の競合 3 キャリアに勝つために全国の楽天モバイルの電波改善。二つ目は、楽天ペイの設置店舗の拡大。こちらは「Beat (打倒) PayPay」を掲げて日々メンバーと試行錯誤を続けております。

明海大学英米語学科卒業生として、「**大学生活の4年間で、その先の40年を決める**」ということをお伝え出来ればと思っております。少しでも今後の学生生活を変えるきっかけに

なっていただければ非常に嬉しく思います。

大学生活のゴールである、就職活動を軸としてお伝えします。卒業生として敢えてストレートに伝えると、明海大学の知名度はまだそれほど高くはなく、就職活動では有利とは言えない状況です。やはり有名大学というだけで次のステップに進みやすいという部分はあると思っています。ただ一方で、学歴というものは「**選考基準の一つに過ぎない**」、というのも事実です。私が明海大学生として大手企業にチャレンジをした経験から、間違いはないと思っております。ですので、今の在学生の方には、学歴に対しての正しい理解を持ち、

大学生生活の4年間を有意義なものにしてほしいと思っています。具体的には、部活動での経験、TOEICなどの資格、アルバイトでの困難を乗り越えた経験などが、就職活動で自分を助けると武器になります。私の場合はTOEIC850点を在学中に取得(当初は350点)したことによって、就職活動は比較的有利に進められたと思っており、現在の会社から内定を頂けたのもこのTOEICという武器が大きかったと思います。就職活動が、人生の全てを決めるわけではないですが、“大半”を決めるとはと思っています。悔いの残らないように学歴に対しての正しい理解と、その上での行動を変えていってほしいと思っています。

「**大学生生活の4年間が、その先の40年を決める**」、この意識を本気で持つことが出来れば、自分のやるべきこと、自分の行動がより変わってくると思っています。心から明海大学生の成功を願っております。

Where there is a will, there is a way

波多野 巨也

【はじめに】

私は2019年3月に明海大学を卒業しました。まずは、在学中にサポートしていただいた先生方、所属していた体育会サッカー部のご関係者様、仲間達に感謝を伝えさせてください。皆様のご協力があったからこそ、大学時代、そして現在を生き生きと過ごすことができおります。特にゼミの小林裕子先生には英語学習だけでなく、留学先、就職活動に対しても厚くサポートいただき感謝しております。



【学生時代】

学生時代は勉強→大学→部活→バイト→勉強というような、かなり充実した毎日を通しました。勉強では主にTOEICにフォーカスして学習を行っておりました。200点台からスタートし、勉強してもまったく成果が出なかった1年生の時期は今でもよく覚えてい

ます。幼い頃からサッカーしかしてこなかったのに、「サッカー以外でも、自分は成果を出せる」ということを証明したく、がむしやりに勉強しました。結果、3年生の時には1か月の語学留学を経験し、卒業時には875点を取得することができました。

【社会人になって】

現在は、ITインフラをメイン事業としている会社に在籍しており、主に公共系(中央省庁、自治体)のお客様の担当営業をしております。社内コンペでも「TOEICを〇〇点を保持しているメンバーがいること」などの要件がある案件が存在するため、学生時代に頑張った成果がでていと度々感じる場合があります。3年目からは海外支社への赴任制度があるため今後は海外で経験を積みたいと考えております。

【後輩たちへ】

自分に自信がなく、未来に不安がある。そんな気持ちの人がほとんどだと思います。大学1、2年時の自分は、その気持ちを避けるように遊んでいました。しかし、卒業という現実は待ってくれません。みんなにはまだ時間という武器あります。自分もそうだったように「意志」さえ強く持っていれば時間がみんなの味方になり、何事もうまくいき始めます。同じような熱い「意思」を持つ仲間と共に、自分たちの手で活気のある明るい未来を掴んでいってください。

編集後記

It is our sincere pleasure to present you with the 2021 *Eibei Journal*! The *Eibei Journal* is a collection of articles and photographs documenting the past academic year of the Department of English at Meikai University. This year was the second year of the “new normal” of our changing lifestyles with Covid-19. Classes progressed smoothly as we rotated between in-person and online classes. Students and teachers became more comfortable with online learning through manaba, zoom and other online tools. Unlike last year, students were able to once again go on internships at companies and city halls, as well as conduct their GSM volunteer work at the Benten Fureai no Mori Park and the 2020 Olympics. It has been another year of considerable learning in the face of many challenges, and we have shown incredible resilience and growth, in countless ways.

Once again, the first students to receive the *Eibei Journal* will be our graduating seniors. After four years in the Department of English, we wish them the best of luck in their new endeavors!

2021 *Eibei Journal* Editorial Committee: T. Hayashi, Y. Yokomizo & K. Nakamura

英米ジャーナル 第18号

2022年3月発行

明海大学 外国語学部 英米語学科

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

明海大学浦安キャンパス

TEL 047-355-5111 (代表)

印刷：株式会社グラフィカ・ウエマツ

〒161-0033 新宿区下落合4-21-19



Sunrise at Meikai